

摂津市の教育に関する事務の管理
及び執行状況の点検及び評価報告書

平成29年度

摂津市教育委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 教育委員会について	1
(1) 教育委員会とは	1
(2) 教育委員会の構成	2
(3) 教育委員の活動	2
① 教育委員会会議	2
② 教育委員の出席行事等	3
3. 点検評価報告書の位置づけ	4
4. 点検評価について	5
(1) 重点事業	6
(2) その他事業	34
[参考] 摂津市が独自に学校に配置している支援人材一覧	52

1. はじめに

「教育は、人格の完成をめざし、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」という教育基本法の目的を達成するため、常に社会の変化に対応し、新しい時代にあった教育の実現が求められています。

近年、経済低成長、少子高齢化が続く社会情勢の中、グローバル化や急速な情報化、技術革新が進む中、社会との連携・協働により「社会に開かれた教育課程」を目指すべき理念とする新学習指導要領が、今後全面実施されます。

摂津市教育委員会では、第4次総合計画に掲げる「誰もが学び、成長できるまち」を目指して、「生きる力の育成」「支援教育の充実」「安全安心で快適な学校・地域づくり」「子ども・子育て支援の充実」「教育コミュニティづくりと生涯学習活動の推進」を目標に掲げ、教育課題に取り組むため、毎年、摂津市教育推進プランを作成しています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成することが義務付けられています。また、点検・評価を行うに当たっては、透明性、客観性を確保するという観点から、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

本報告書は平成29年度の取り組みについて、点検・評価を行うことで、次年度により高い成果を上げ、教育行政の一層の充実につなげていくものです。

2. 教育委員会について

(1)教育委員会とは

教育委員会とは、市の教育行政に関わることを審議し決定する機関です。

教育委員会は、教育長を含む5名の教育委員で構成されており、規則の制定・改廃や、教職員の人事の決定、予算に関する意見の申出などを行う毎月1回の教育委員会会議のほか、学校訪問、各種行事への出席など、教育に係わる幅広い活動を行っています。

教育委員会会議は公開をしておりますので、市民の傍聴が可能です。

また、制定・改廃した規則等については、市役所正面に掲示しています。

(2)教育委員会の構成（平成 29 年度）

職名	氏名	最初の就任日 (任期満了日)
委員長	オオヤ ユウコ 大矢 優子	H20. 3. 8 H34. 3. 31
委員長職務代理者	フクモト ミノル 福元 実	H24. 4. 1 H33. 3. 31
委員	ヤマテ チェコ 山手 知榮子	H24. 11. 11 H32. 3. 31
委員	ニシカワ トシタカ 西川 俊孝	H28. 11. 11 H31. 3. 31
教育長	ハシオダニ トモヤ 箸尾谷 知也	H25. 4. 1 H30. 9. 30

- ・教育長は教育委員会が任命。教育委員は市長が議会の同意を得て任命。それぞれ任期は4年で、再任可。
- ・委員長は教育委員の互選により選ばれ、任期は1年で、再任可。
- ・委員長職務代理者は教育委員会が教育委員のうちから指定し、任期は1年で、再任可。

(3)教育委員の活動

①教育委員会会議

平成 29 年度は定例会を 12 回、臨時会を 1 回開催しました。教育委員会の人事についての審議や、学校での問題行動等について意見を出し再発防止にどうつなげていくか、全国学力・学習状況調査の結果を今後の本市の教育にどう活用していくかなどについて議論しました。

教育委員会会議開催回数

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
定例会	12	12	12
臨時会	1	1	4
合計	13	13	16

教育委員会会議案件数

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
付議事件	51	58	62
報告事項	63	49	67
その他	6	5	5
合計	120	112	134

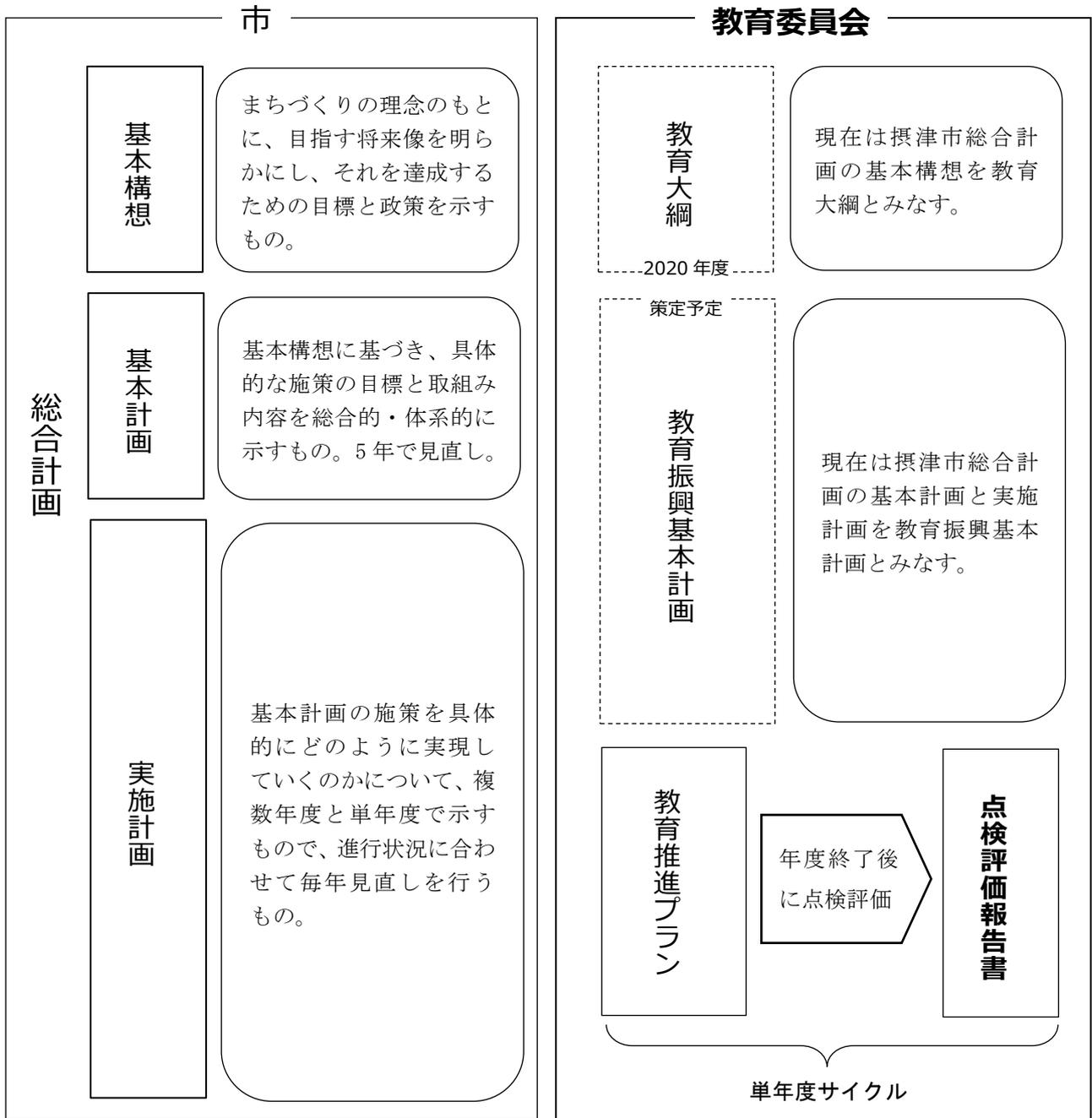
②教育委員の出席行事等

- ・小中学校入学式・卒業式：各校へ出席
- ・学校園所訪問：全校・幼稚園・保育所 計 20 施設訪問
- ・公開研究授業及び研究発表会：全校、26 回開催のうち、8 回に参加
- ・学校経営に係るヒアリング：全校、幼稚園、保育所 計 20 施設実施
- ・教科書採択に関する学習会：3 回出席
- ・公民館まつり：4 回出席

その他出席行事等

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| ・近畿市町村教育委員会研修大会 | ・摂津市こども会大会 |
| ・三島地区教育委員協議会・研修会 | ・摂津市こども会総会 |
| ・大阪府都市教育委員会研修会（道徳） | ・キッズなかよし発表会 |
| ・大阪府都市教育委員会連絡協議会定期総会 | ・摂津市社会を明るくする運動
市民のつどい |
| ・市町村教育委員研究協議会（初任者） | ・人権を考える市民のつどい |
| ・市町村教育委員会研究協議会(第2ブロック) | ・摂津市総合防災演習 |
| ・市町村教育委員会委員長・教育長会議 | ・摂津市民福祉まつり |
| ・市町村教育委員会研修会（道徳） | ・摂津市年賀交歓会 |
| ・新規採用教職員辞令交付式・着任式 | ・戦没者追悼式 |
| ・退職教職員辞令交付式・教育委員会表彰状及び感謝状贈呈式 | ・議員総会 |
| ・摂津市教育フォーラム | ・世界人権宣言摂津連絡会議総会 |
| ・摂津市立保育所・幼稚園・小中学校管理職と教育委員会の懇談会 | ・三宅柳田α共室 活動発表会 |
| ・摂津市学校保健会総会 | ・三宅柳田小 10 周年記念 |
| ・摂津市成人祭 | ・摂津支援学校 体育祭 |
| ・摂津市 P T A 協議会 代議員総会 | ・摂津支援学校卒業証書授与式 |
| ・青少年指導員杯こどもスポーツ大会 開会式 | ・日中友好青少年書画展 |
| ・こども会親善スポーツ大会開会式・抽選会 | ・淀川わいわいガヤガヤ祭 |

3. 点検評価報告書の位置づけ



4. 点検評価について

平成 29 年度の事業のうち本市の重要な課題に対する事業である重点事業とそれ以外のその他事業を分けて点検評価しました。

また、甲子園大学非常勤講師の島善信氏と前大阪薫英女学院中学校・高等学校長の白井孝雄氏、大阪人間科学大学教授の柏原栄子氏に意見をいただき、報告書に反映しています。

なお、評価については、Aは「指標以上」、Bは「概ね指標通り」、Cは「指標に達しなかった」とします。

施策一覧

(☑)は重点事業を含む施策を指す

目標	施策の方向性	施策
1 生きる力の育成	(1) 確かな学力を育む教育	① 授業改善の推進 ② 学習習慣の定着・学習意欲の向上☑ ③ 読書活動の推進
	(2) 豊かな心を育む教育	① 人権教育の推進 ② 道徳教育の推進☑
	(3) 健康・体力の向上を目指す教育	① 運動意欲の向上・基本的生活習慣の定着 ② 学校体育と部活動の推進
	(4) これからの時代に必要とする教育	① グローバル化に対応した英語力の向上☑ ② プログラミング的思考力の向上
	(5) 今日的な課題に対応した教育	① いじめの防止・不登校児童生徒の支援☑ ② 進路選択の支援
	(6) 一貫性のある教育	① 就学前教育と保幼小連携の充実☑ ② 小中一貫教育の推進
	(7) 教育の質を高める体制	① 学校園所経営と職員育成 ② 地域・関係機関との連携
2 支援教育の充実	(1) 支援教育と就学支援	① 個に応じた一貫性のある指導の推進☑ ② 相談体制の充実
3 安全安心で快適な学校・地域づくり	(1) 安全安心で快適な学校環境整備	① 教育環境の整備☑ ② 感染症の予防 ③ 学校給食の管理☑
	(2) 安全安心な地域づくり	① 登下校時の安全確保・見守り体制の充実
4 子ども・子育て支援の充実	(1) 子ども・子育て支援の充実	① 教育・保育の充実☑ ② 子育て相談・支援☑ ③ 子育て家庭に対する多様なサービスの充実
5 教育コミュニティづくりと生涯学習活動の推進	(1) 生涯学習の推進	① 学びつづける機会の充実 ② 家庭教育力の充実 ③ 学習施設の整備と活用☑
	(2) 青少年の健全育成の推進	① 青少年団体の活動支援と連携 ② 体験学習等の機会の提供
	(3) 文化財の保護活用と市史編さん	① 文化財の状況把握と保護 ② 市史編さんと歴史資料の調査・保存
	(4) 市民に親しまれる図書館	① 図書館運営の管理 ② 子ども読書活動の充実☑

(1)重点事業

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(1)確かな学力を育む教育

施策	②学習習慣の定着・学習意欲の向上
<p>児童生徒の学習習慣の定着や学習意欲の向上を図るため、授業中のサポートと個別支援のための支援人材を学校に配置し、教職員が目標を共有し、一致団結して取り組むための組織的な体制を強化する。</p>	

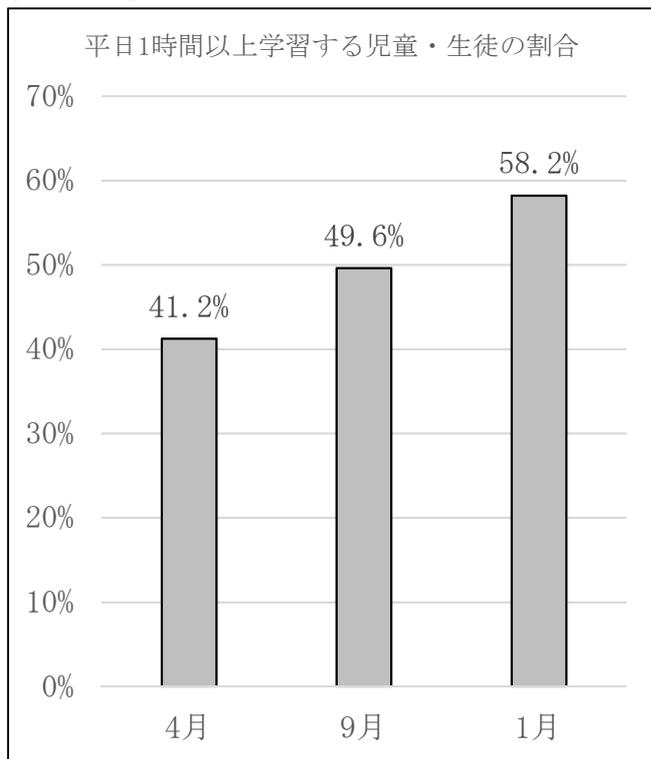
事業名	学力向上推進事業		
事業予算(千円)	10,673	事業決算(千円)	9,471
平成29年度実施内容			
<p>小学6年生と中学1年生を対象に平日の夜、市内3か所で「摂津SUNSUN塾※」を開設する。(年間60回、教科は算数・数学)</p>			
指標	平成29年度実績		評価
①平日・休日1時間以上学習する児童・生徒の割合の増加(4月から1月まで)	①平日 58.2% (同年4月比 +17.0)	休日 52.2% (同年4月比 +2.3)	B
②「摂津SUNSUN塾」の開設数(3か所)	②3か所		
実施内容に係る予算(千円)	3,060	実施内容に係る決算(千円)	3,060

取り組みの総括
<p>○3会場(定員75名)開設し、小学6年生74名、中学1年生69名が受講した。(定員充足率95.3%)</p> <p>○アンケート調査から、家庭学習について、「平日1時間以上学習する割合」「休日1時間以上学習する割合」が向上し、成果が見られた。[グラフ1]、[グラフ2]</p> <p>○受講生の学力については、とりわけ小学6年生において大きく成果が見られた。[グラフ3]</p> <p>○中学1年生の一部の会場でクラスが落ち着かない状況に陥り成績の低下が見られたことから急遽講師と補助員の計2名を配置した。[グラフ4]</p> <p>○もっと近くで開設して欲しいとの要望等が多数あったことから、次年度は会場数を拡充するとともに、講師及び補助員の増員を進めていく必要がある。</p>

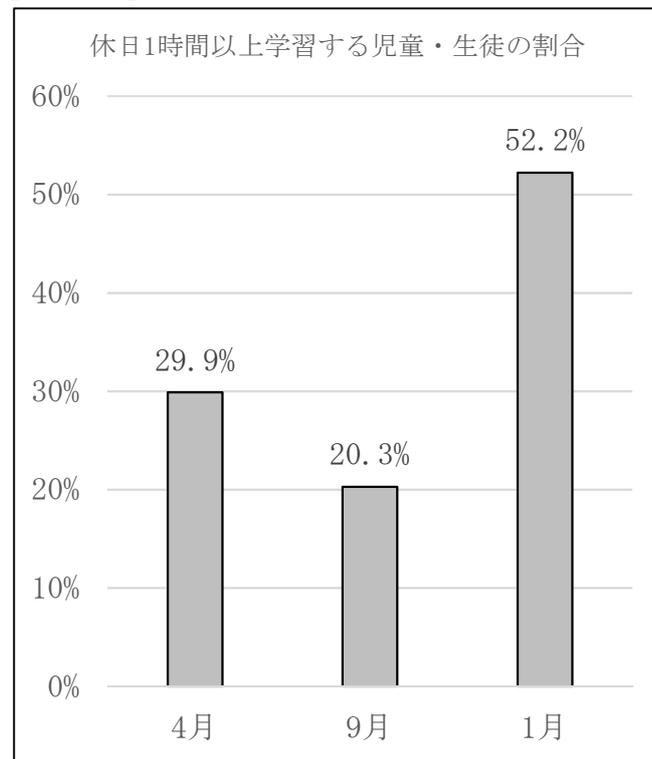
今後の取り組み
<p>○3会場から5会場へ拡充し、既存の3会場に、新たに補助指導員を配置する。</p>

※摂津SUNSUN塾：摂津市が民間委託する無料塾。保護者はテキスト代、テスト代のみ負担する。

[グラフ 1]

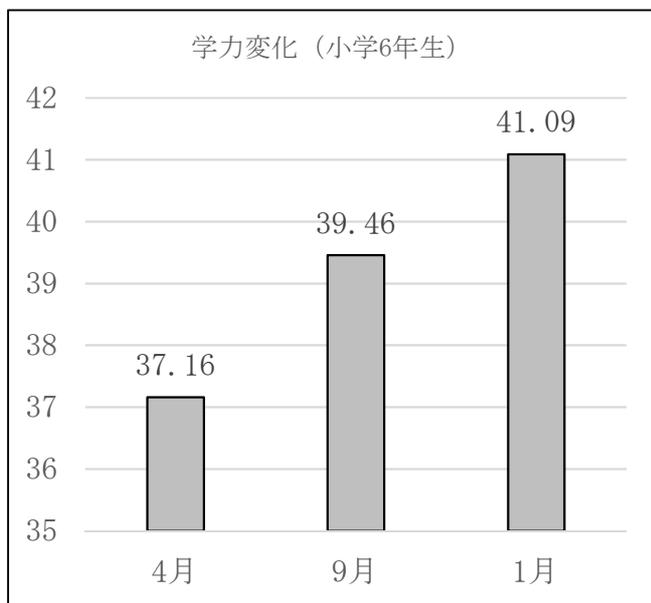


[グラフ 2]

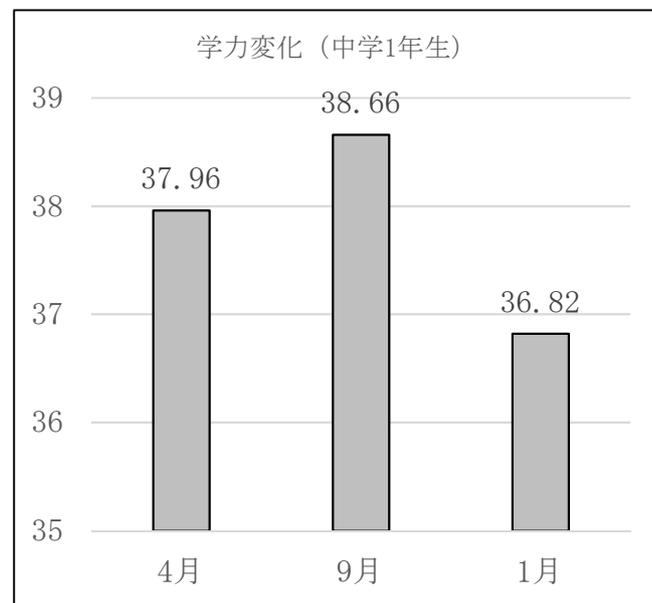


『摂津 SUNSUN 塾受講生へのアンケート』より

[グラフ 3]



[グラフ 4]



平成 29 年度「摂津 SUNSUN 塾」受講生の学力 (全国学習塾協会作成テスト)

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(2)豊かな心を育む教育

施策	②道徳教育の推進
<p>全ての子どもが大切にされていることを実感でき、まわりの人も大切にできる意識と態度を育てることは、次代を担う子どもたちの生きる力の基盤となる。自尊感情やコミュニケーション力、規範意識や人権意識など社会の一員として自立するための基礎となる力を育む。</p>	

事業名	道徳教育の充実		
事業予算(千円)	-	事業決算(千円)	-
平成 29 年度実施内容			
平成 30 年度及び 31 年度からの小中学校での「特別の教科道徳」の教科化に向けて新たに管理職及び道徳教育推進教師※等を対象とした教育内容や評価方法の事例研究を行う研修を実施する。			
指標	平成 29 年度実績		評価
①研修会開催数 (5 回)	① 5 回 (うち研究授業 1 回)		B
②道徳教育推進教師配置数 (15 名)	②15 名 (全校)		
実施内容に係る予算 (千円)	-	実施内容に係る決算 (千円)	-

取り組みの総括
<p>○研修会において、目標や内容項目、評価方法等の理解促進を図り、各校の全体計画の見直し、研究の推進を図った。うち 1 回は、研究授業を伴った研修会[写真 1]とし、指導と評価について協議を行い、道徳教育推進教師等の授業力向上を図った。</p> <p>○各校の年間指導計画や道徳に係る教科の学習内容一覧表の作成を研修内容に取入れ、平成 30 年度からの教科化に向け、各校の全体計画の見直しを行った。</p>

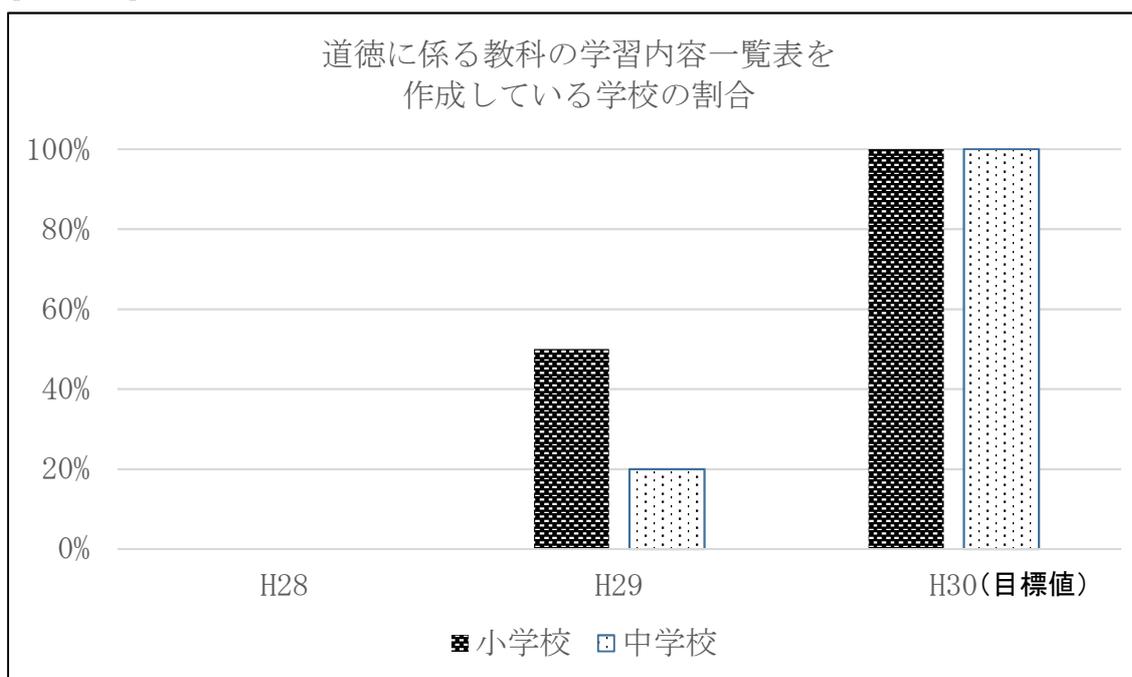
今後の取り組み
<p>○平成 30 年度及び 31 年度からの「特別の教科道徳」が適切に実施されるよう、平成 30 年度中に全校で道徳に係る教科の学習内容一覧表を作成する。[グラフ 1]</p>

※道徳教育推進教師：指導計画の作成、教材の整備・充実など道徳教育の推進を主に担当する教師。

[写真 1] 研究授業を伴った研修会の様子



[グラフ 1]



目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(4)これからの時代に必要とする教育

施策	①グローバル化に対応した英語力の向上
<p>小学校の外国語活動では、指導方法や評価の研究・研修の機会を設け、外国人英語指導助手や地域人材の効果的な活用等、総合的な取組みを推進する。また、小中学校の英語教育の充実に向け、教員の指導力向上のための研修を行う。</p>	

事業名	外国語活動支援事業		
事業予算(千円)	1,965	事業決算(千円)	1,886
平成 29 年度実施内容			
<p>大阪府公立小学校英語学習 6 年プログラム「DREAM※」を全小学校で活用し、児童の英語力向上と教員の指導力向上を図る。「DREAM」の活用や外国語活動の授業及び研修支援を実施し、各小学校における英語の必修化に向けた校内体制づくりを推進する。外国人英語助手★(ALT)の派遣日数増(小学校:16日、中学校:80日)や、全小学校での English Day※の開催により、児童生徒の英語に親しむ機会を増やす。</p>			
指標	平成 29 年度実績		評価
外国語活動に係る研修会実施回数(校内研修講師を含む)の増加	45回[グラフ 1]		B
実施内容に係る予算(千円)	1,263	実施内容に係る決算(千円)	1,261

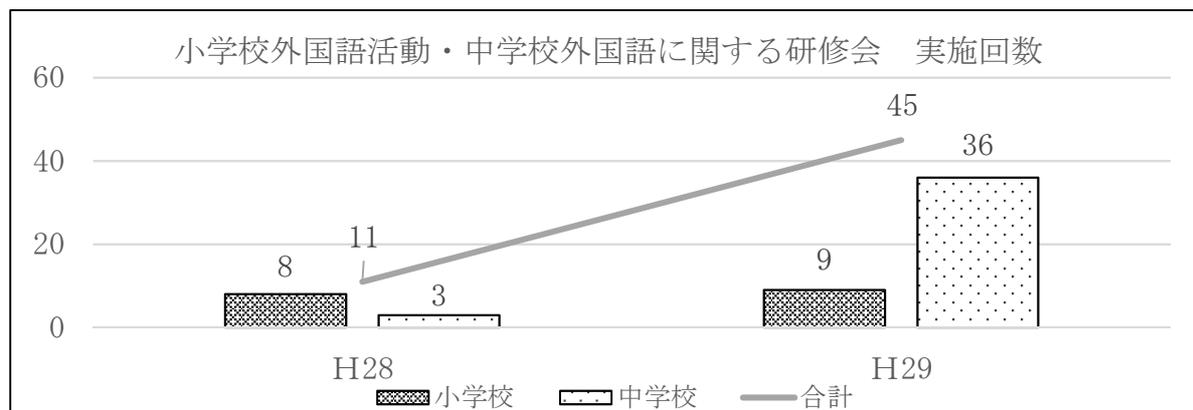
取り組みの総括
<p>○児童アンケート結果から、高学年になるほど、「DREAM の時間は楽しい」、「英語を話せるようになりたい」など外国語活動に関する意欲の低下がみられるが[グラフ 2] [グラフ 3]、これは「DREAM」活用の初年度で、全学年の児童に対して、1年生の教材を使用したことが要因であると考えられる。</p>

今後の取り組み
<p>○義務教育 9 年間を見通した一貫性と系統性のある指導を行い、児童の外国語活動に関する意欲の向上を図るとともに、外国人英語助手(ALT)や外国語活動支援員★等を活用し教員の語彙力と指導力向上を図る。</p>

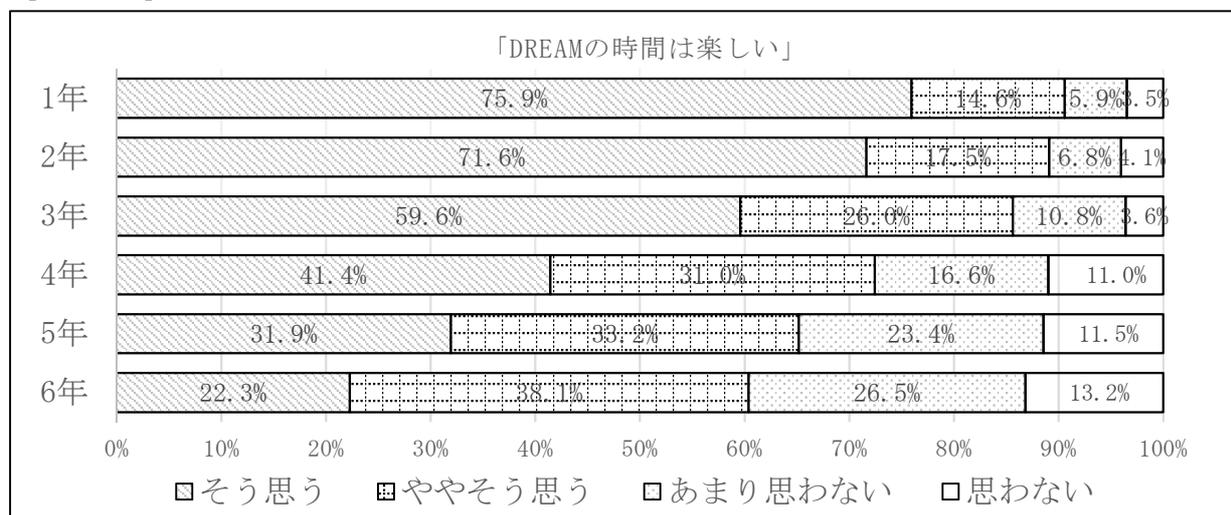
※DREAM:大阪府教育委員会が作成し、小学1年生から6年生を対象とした1回15分×週3回のDVD視聴を通じた学習で、4技能(聞く、読む、話す、書く)育成を図るプログラム。

※English Day:実施日に当該校へ全ALTを集め、児童が様々な時間を通して英語に親しむ日。

[グラフ 1]

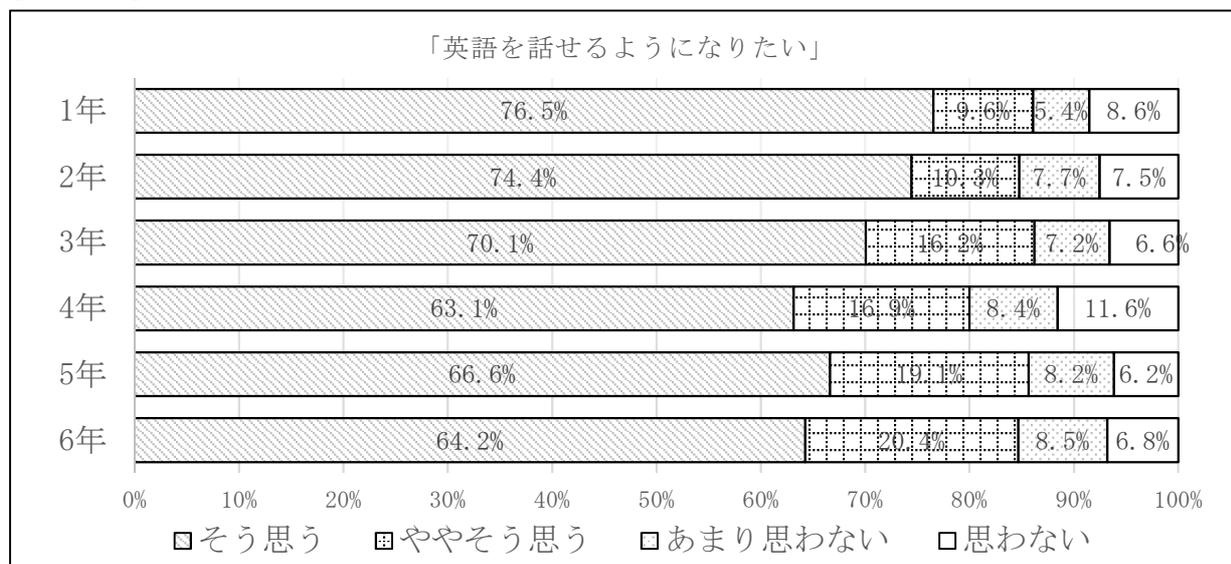


[グラフ 2]



『児童対象 DREAM に関するアンケート』（3 学期実施）より

[グラフ 3]



『児童対象 DREAM に関するアンケート』（3 学期実施）より

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(5)今日的な課題に対応した教育

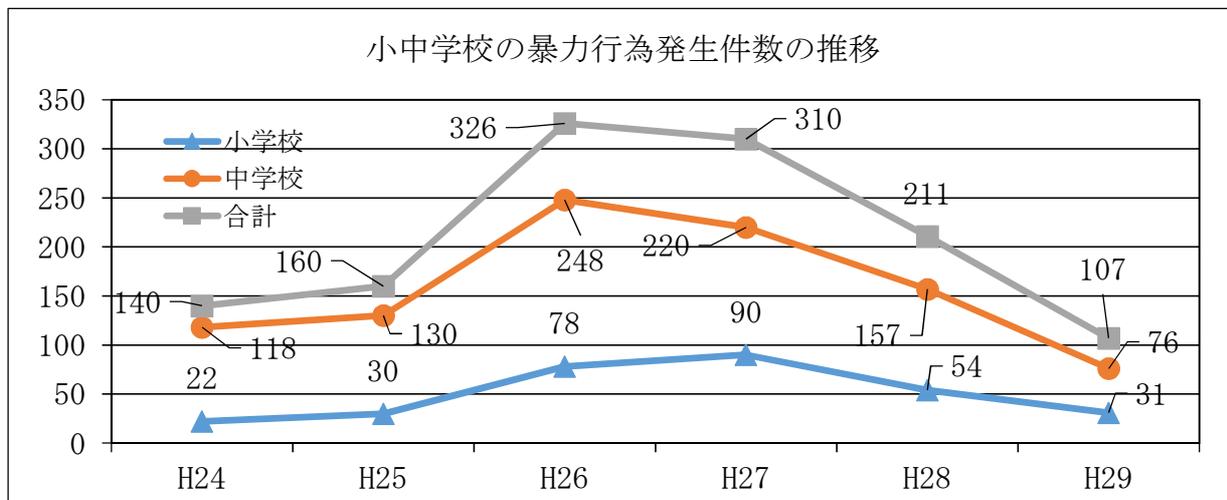
施策	①いじめの防止・不登校児童生徒の支援
いじめ・不登校・問題行動等の状況は、その背景が複雑化し、深刻な状況にある。学校・保護者・地域とのつながりをさらに強め、関係機関とも連携して、未然防止・早期対応・再発防止に努め、全ての子どもの安心・安全を確保する取組みを進める必要がある。	

事業名	スクールソーシャルワーカー等活用事業		
事業予算(千円)	10,873	事業決算(千円)	9,915
平成29年度実施内容			
市のスクールソーシャルワーカー★(SSW)3人を非常勤職員として任用、市内の1つの中学校区を重点校区として週4日配置し、他の中学校区には拠点校1校に週2日ずつ配置する。			
指標	平成29年度実績		評価
①暴力行為発生件数の減少[グラフ1]	①107件(対前年比 -104)		B
②いじめ認知件数の減少[グラフ2]	②62件(対前年比 -3)		
③不登校児童生徒数の減少[グラフ3]	③154人(対前年比 +11)		
実施内容に係る予算(千円)	10,293	実施内容に係る決算(千円)	9,428

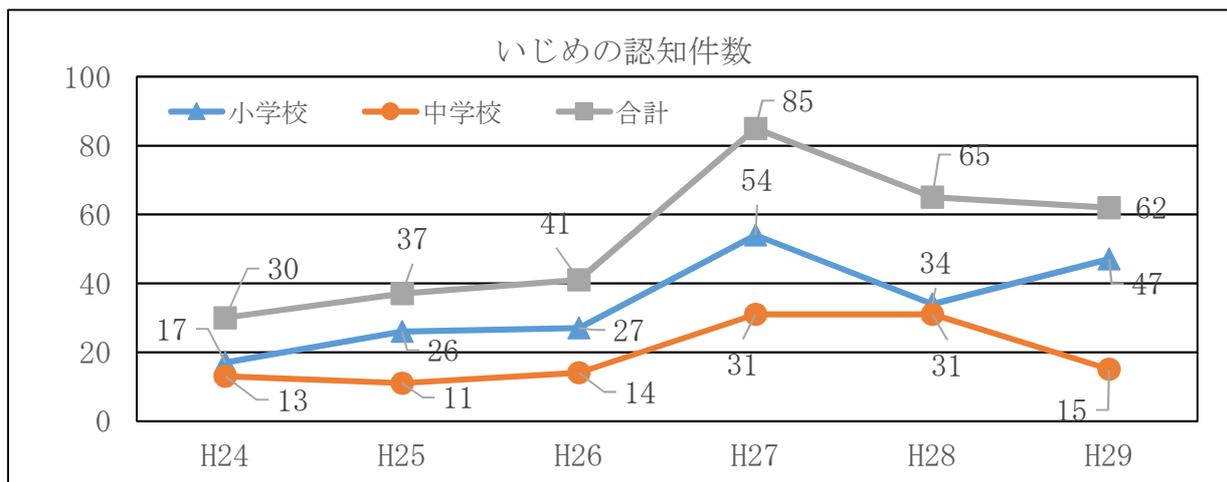
取り組みの総括
<p>○全校のケース会議に参加し、生徒指導事案の解決や未然防止に関わり、問題行動件数を減らすことができた。</p> <p>○課題を抱える児童生徒やその家庭に対する直接支援を行い、教職員とともに不登校児童生徒に関わることができた。</p> <p>○中学校区内の小中学校や警察、子ども家庭センター、市役所関係機関との連携を強化し、組織的対応を推進することで、問題行動を減少させることができた。</p> <p>○拠点校を中心にSSWを効果的に活用することで、ケース会議の実施回数も増加している。</p>

今後の取り組み
○研修会等を通じて、SSWの活用事例を広めていくとともに、SSWを増員し、各中学校区において不登校やいじめ、問題行動等の指導・支援体制を強化していく。

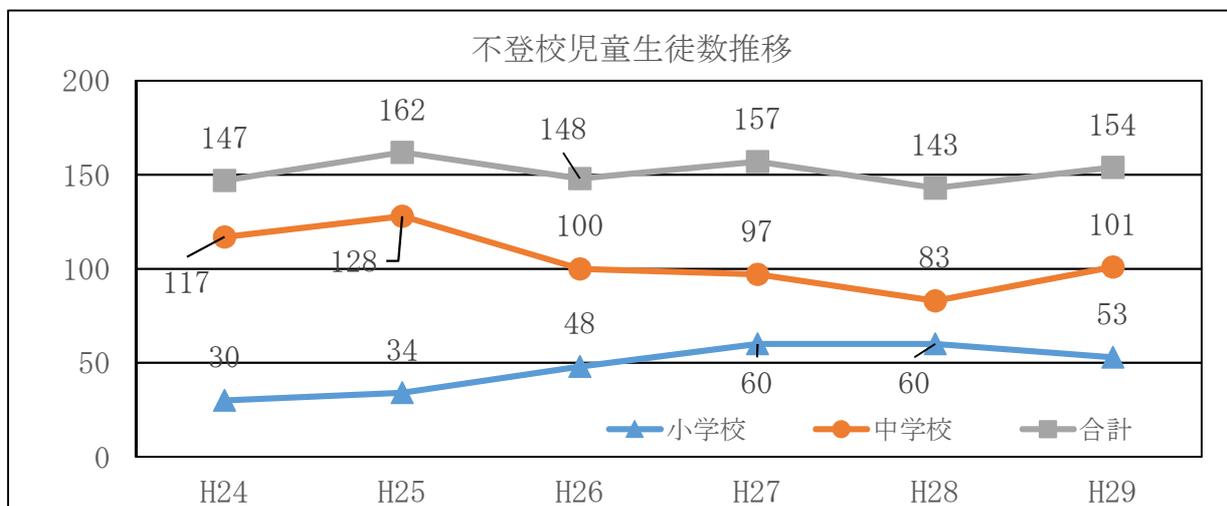
[グラフ 1]



[グラフ 2]



[グラフ 3]



『平成 29 年度問題行動等調査』より

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(5)今日的な課題に対応した教育

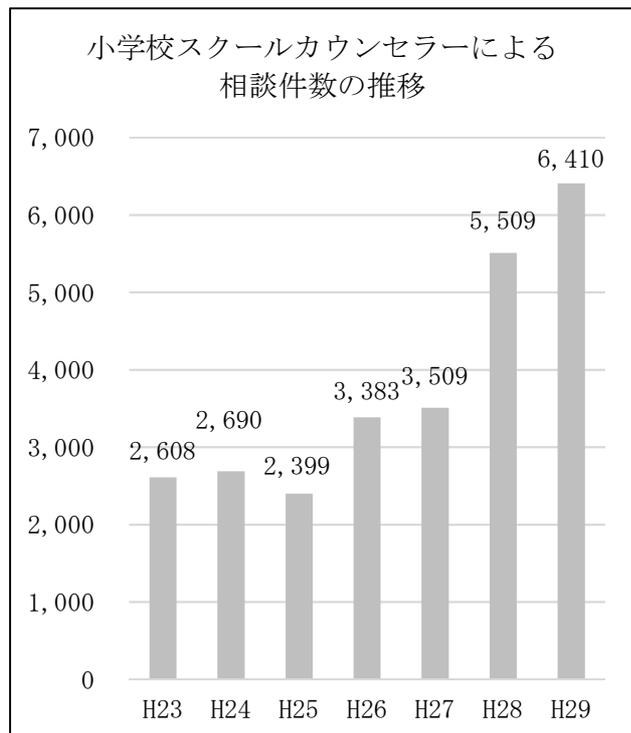
施策	①いじめの防止・不登校児童生徒の支援
いじめ・不登校・問題行動等の状況は、その背景が複雑化し、深刻な状況にある。学校・保護者・地域とのつながりをさらに強め、関係機関とも連携して、未然防止・早期対応・再発防止に努め、全ての子どもの安心・安全を確保する取組みを進める必要がある。	

事業名	教育相談事業		
事業予算(千円)	28,207	事業決算(千円)	25,589
平成29年度実施内容			
全小学校に週1日スクールカウンセラー★(SC)として臨床心理士を配置し、また、教育センターにも臨床心理士を配置し、児童生徒・保護者の悩みの早期解決をめざし、関係機関と連携する。			
指標	平成29年度実績		評価
臨床心理士を配置(全小学校及び教育センター)	全小学校10校及び教育センターに配置		B
実施内容に係る予算(千円)	20,024	実施内容に係る決算(千円)	18,291

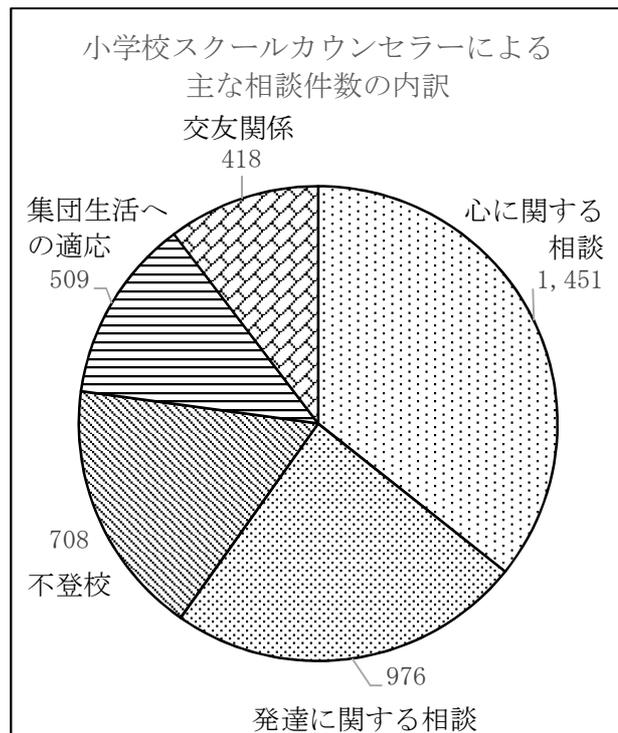
取り組みの総括
<p>○SCや教育センターの臨床心理士が、ケース会議等に積極的に参加し、臨床心理の視点から児童生徒及び保護者への支援について学校へ助言を行った。</p> <p>○週1回の学校での相談体制では不足している分について教育センターで相談を受けた。</p>

今後の取り組み
<p>○相談件数は年々増加にあり、子どもの発達や養育に関する相談や学校のみでは解決が困難な事例も増加しており、関係機関との連携をさらに行う必要がある。[グラフ1~4]</p> <p>○平成30年度より、配慮を要する幼児の早期発見・早期支援のため、就学前(年長児)の就学相談からのケースについて、発達検査を実施する。</p> <p>○今後、カウンセラーの増員や、学校派遣回数が増加が必要である。</p>

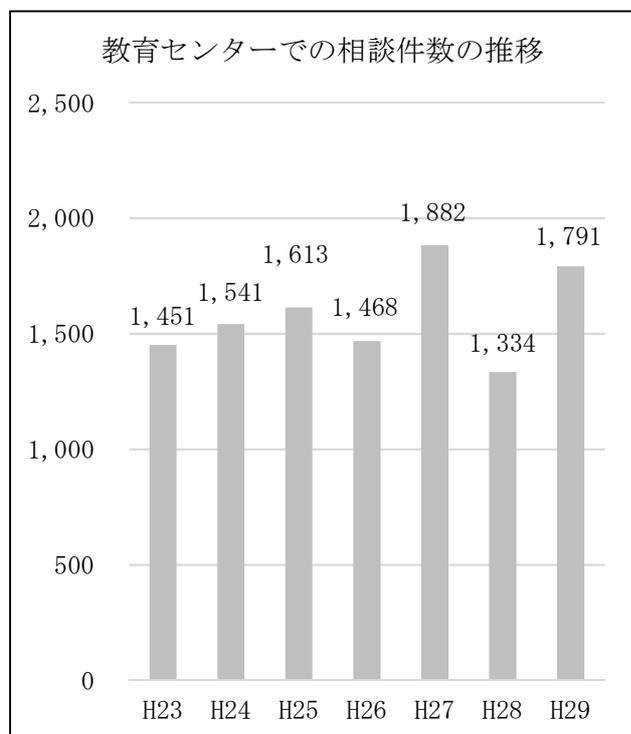
[グラフ 1]



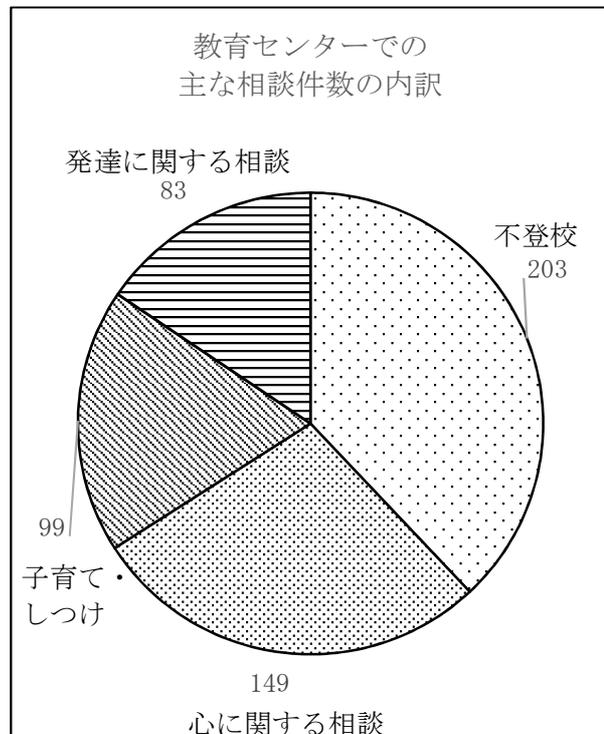
[グラフ 2]



[グラフ 3]



[グラフ 4]



H29 年度相談件数は H28 年度に比べ約 1,400 件（約 20%）増加しており、現在の教育相談体制では対応しきれなかったため、平成 30 年の 1、2 月の受付を一旦ストップし、3 月に再開した。

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(6)一貫性のある教育

施策	①就学前教育と保幼小連携の充実
就学前教育の充実のため、保育所や幼稚園などにおける就学前教育は、小学校からの学校生活と学習の基盤となり、小学校生活への円滑な接続を図る必要があるため、保育士・幼稚園教諭などと小学校教諭の連携充実を行う。	

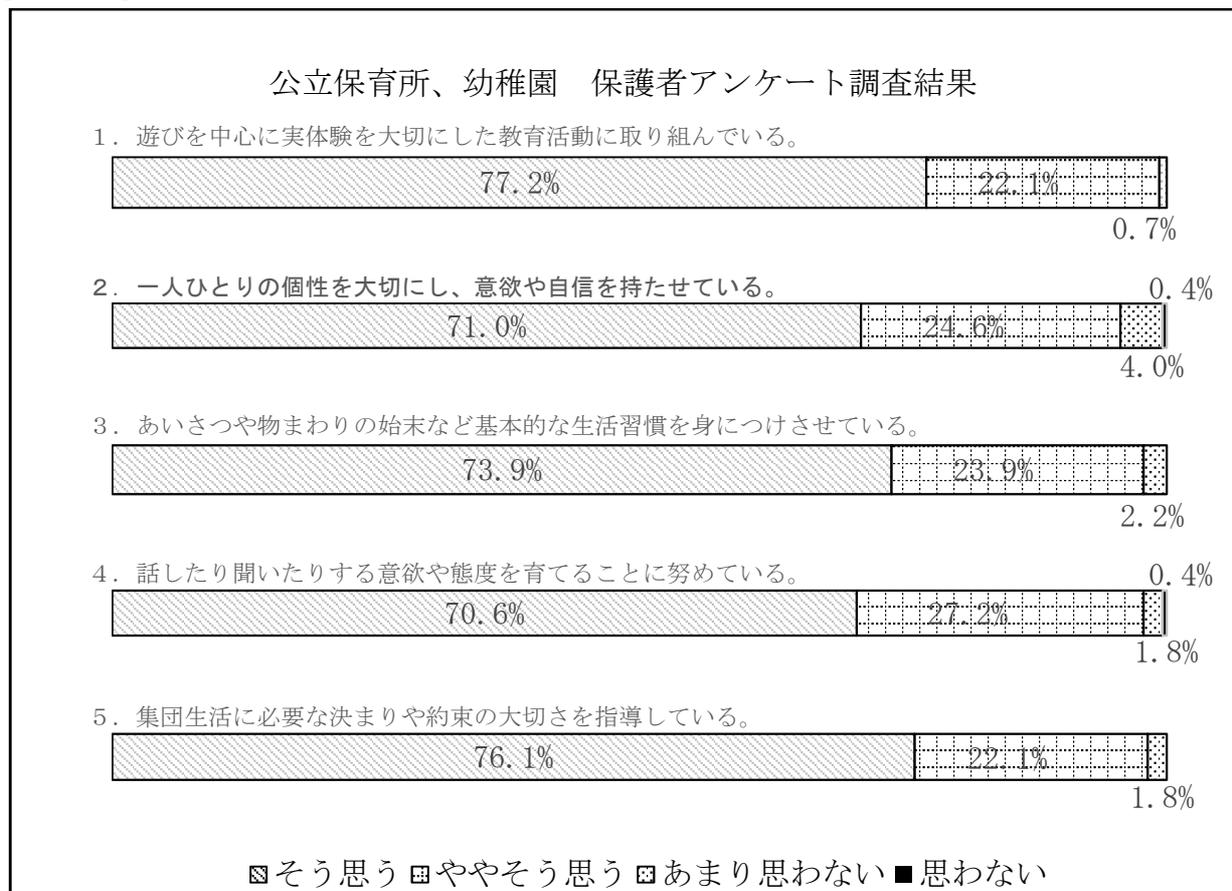
事業名	就学前教育推進事業		
事業予算(千円)	120	事業決算(千円)	120
平成29年度実施内容			
公私立保育所等の保育士、保育教諭、幼稚園教諭、小学校教諭を対象とした就学前教育研修を実施する。			
指標	平成29年度実績		評価
公立保育所、幼稚園の保護者アンケートにおいて、就学前教育に係る項目の肯定的な回答率(95%以上)	平均 98.0%[グラフ1]		B
実施内容に係る予算(千円)	120	実施内容に係る決算(千円)	

取り組みの総括
<p>○4回開催した就学前教育研修では、愛着障害※の具体的な見立てや発達障害との違いなど、より実践的な研修を実施したことから、今後の子どもの関わり方に活かせるものとなった。</p> <p>○小学校教員の研修参加者が昨年度より大幅に増加したことは、就学前教育の重要性が小学校現場にも徐々に浸透してきていることが推測できる。</p> <p>○研修終了後の受講者アンケートでは、「内容がわかりやすく、有意義でした。」や「これからの子どもとの関わり方に活かしていきたい。」「来年度も継続してほしい。」など、肯定的意見が多かった。[グラフ2]</p>

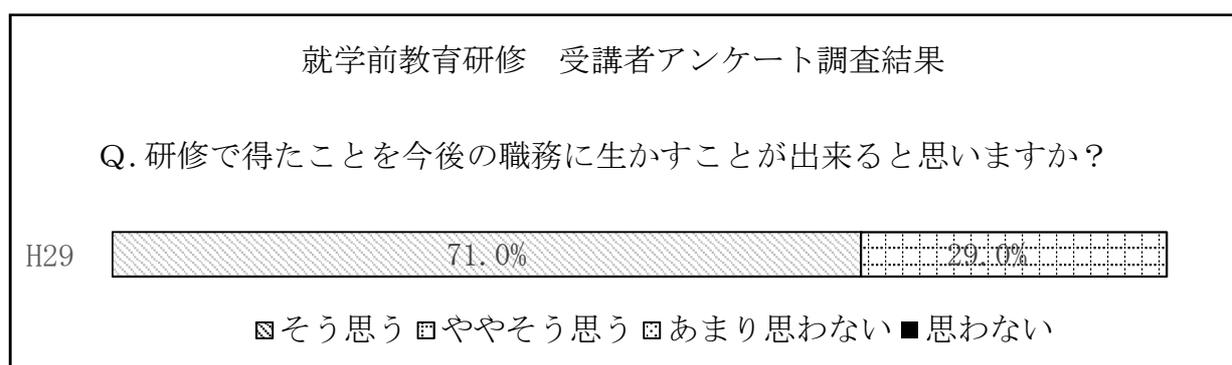
今後の取り組み
○引き続き、公私立保育所等の保育士、保育教諭、幼稚園教諭、小学校教諭を対象とした就学前教育研修を実施するとともに、各小学校において保幼小交流会を開催する。

※愛着障害：乳幼児期に長期にわたって虐待やネグレクト（放置）を受けたことにより、保護者との安定した愛着（愛着を深める行動）が絶たれたことで情緒や対人面に問題が起こる状態。

[グラフ 1]



[グラフ 2]



目標	施策の方向性
2. 支援教育の充実	(1)支援教育と就学支援

施策	①個に応じた一貫性のある指導の推進
障がいの有無にかかわらず、全ての人が平等に生活し、活動する社会を目指すノーマライゼーションの理念のもと、支援学級担任や教職員の専門知識や指導技術の向上を図る。	

事業名	特別支援教育推進事業		
事業予算(千円)	1,753	事業決算(千円)	1,752
平成29年度実施内容			
教職員の特別支援教育に関する基礎的な知識等の習得のための研修を実施するとともに、一人ひとりの児童・生徒の障害に応じた適切な指導力の向上を図るために学校毎に実施されている専門家による指導・相談（巡回相談）の実施校を拡充する。			
指標	平成29年度実績		評価
①基礎的研修の実施	①特別支援教育基礎講座：2回、課題別研修：2回		B
②巡回相談実施校の拡充	②6校（前年度比 +3）		
実施内容に係る予算(千円)	715	実施内容に係る決算(千円)	714

取り組みの総括
<p>○特別支援教育基礎講座では、教職経験の浅い教員や支援学級担任経験の浅い教員が発達障害に関する理解を深め、特別な支援を必要とする児童生徒に対する支援を行った。</p> <p>○巡回相談実施校において、一人ひとりの特性を理解し、わかりやすい環境づくりや自立課題づくりに取り組んだ。[写真1]、[写真2]</p> <p>○巡回相談実施校での実践を市内教職員に報告し、効果的な取り組みについて教職員が学ぶことができた。[グラフ1]</p>

今後の取り組み
○巡回相談実施校での相談回数を拡充するとともに、特別支援教育に関する教員の専門性の向上を図る研修を引き続き企画する。

[写真1] 落ち着いて学習できるスペースの設置



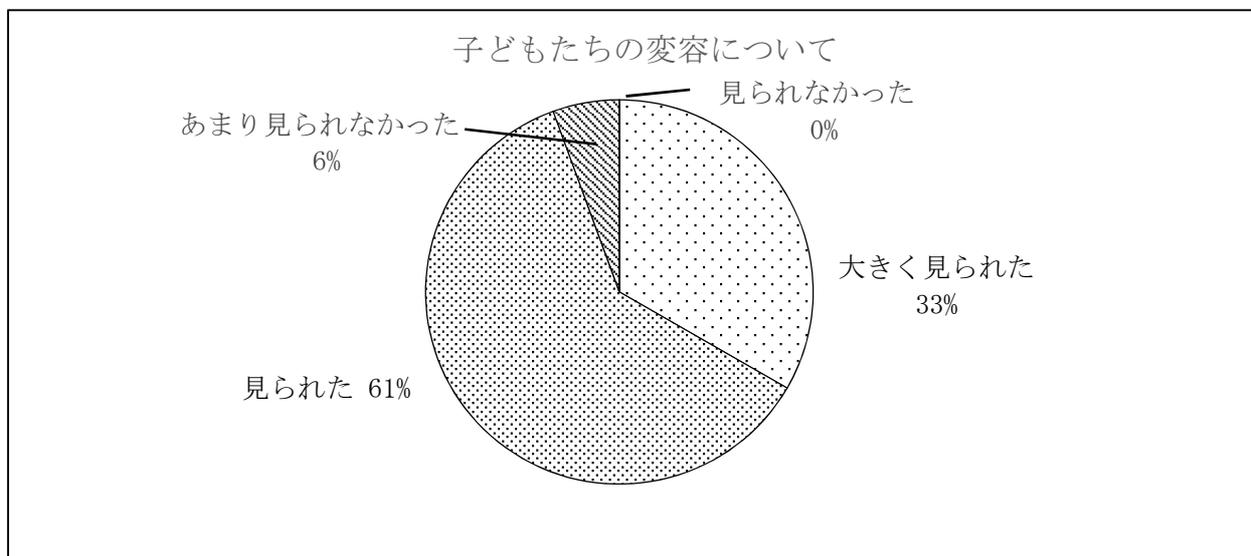
「一人で学習エリア」「リラックスエリア」など、支援学級の教室の環境がわかりやすくなり、落ち着いて学習できる。一人で学習する時間には「自立課題」を取り入れ、一人でできた成功体験を積むことができる。

[写真2] 視覚化したスケジュールの提示



一日の流れを、写真等を使って視覚的にわかりやすく提示することで見通しを持って生活することができる。

[グラフ1]



『巡回相談指導実施校アンケート』より

巡回相談指導を受けた教員の94%が肯定的回答。

子どもたちの変容の例

- ・「スケジュールを視覚化することで、子どもたちが見通しをもつことができた」
- ・「見通しを持つことで、落ち着いて過ごせるようになった」
- ・「自立課題を取入れることで、子どもたちの自信につながった」 等

目標	施策の方向性
3. 安全安心で快適な学校・地域づくり	(1)安全安心で快適な学校環境整備

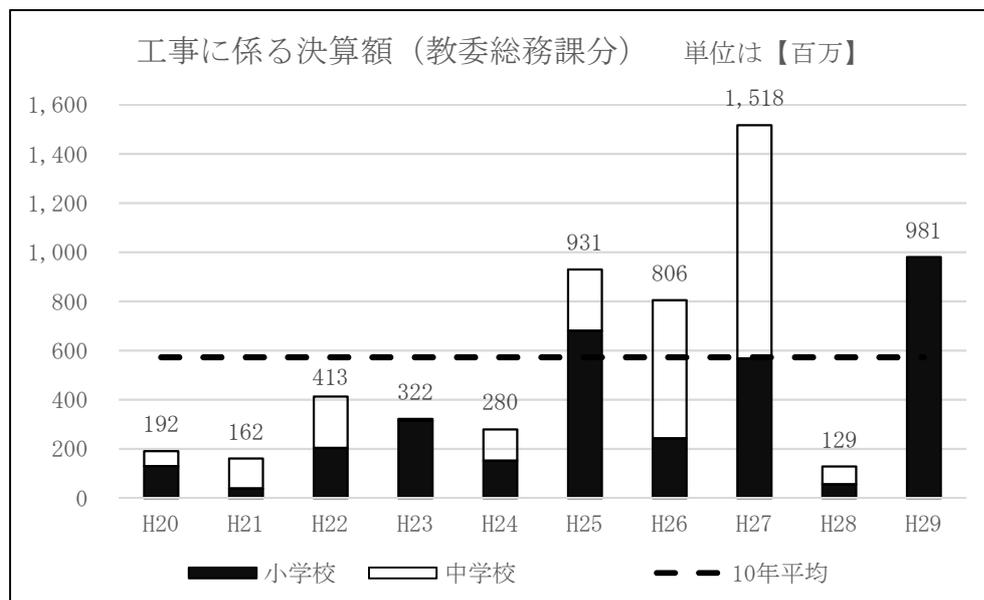
施策	①教育環境の整備
<p>建築後 30 年を経過している施設の改修や非構造部材の耐震化等を行い、安全安心で快適な学校環境の整備を図る。</p>	

事業名	小学校施設改修事業		
事業予算(千円)	1,164,572 (H28 繰越含む)	事業決算(千円)	979,700
平成 29 年度実施内容			
<p>老朽化に伴う味生、摂津、鳥飼西小体育館の改修工事、児童数増加に伴う摂津小校舎の増築工事を行う。</p>			
指標	平成 29 年度実績		評価
①老朽化体育館の改修数 (3 校)	①3 校。累積 9 校/15 校。		B
②LED 照明設置の体育館数 (3 校)	②3 校。累積 4 校/15 校		
実施内容に係る予算(千円)	1,164,572 (H28 繰越含む)	実施内容に係る決算(千円)	979,700

取り組みの総括
<p>○味生小学校、鳥飼西小体育館では老朽化で心配される雨漏り対策として、体育館の屋上防水や外壁改修等を行った。</p> <p>○味生、摂津、鳥飼西小学校では体育館の照明を LED にしたことで児童や教職員が驚くほど館内が明るくなり、教育環境が向上した。</p> <p>○摂津小学校体育館の外壁にアスベストの含有があり、工期的に改修ができなかったため、今後、平成 31 年度に設計、平成 32 年度に工事を目指す。</p> <p>○摂津小学校校舎では、3 階建教室棟（普通教室 18 教室、トイレ、配膳室ほか）と 2 階建職員室棟（職員室と下足室）を増築した。</p>

今後の取り組み
<p>○今後は鳥飼北小、三宅柳田小、味舌小について、老朽化体育館や校舎の改修を年次計画に基づき改修工事を行うとともに国へ予算措置について要望を行う。[グラフ 1][グラフ 2]</p>

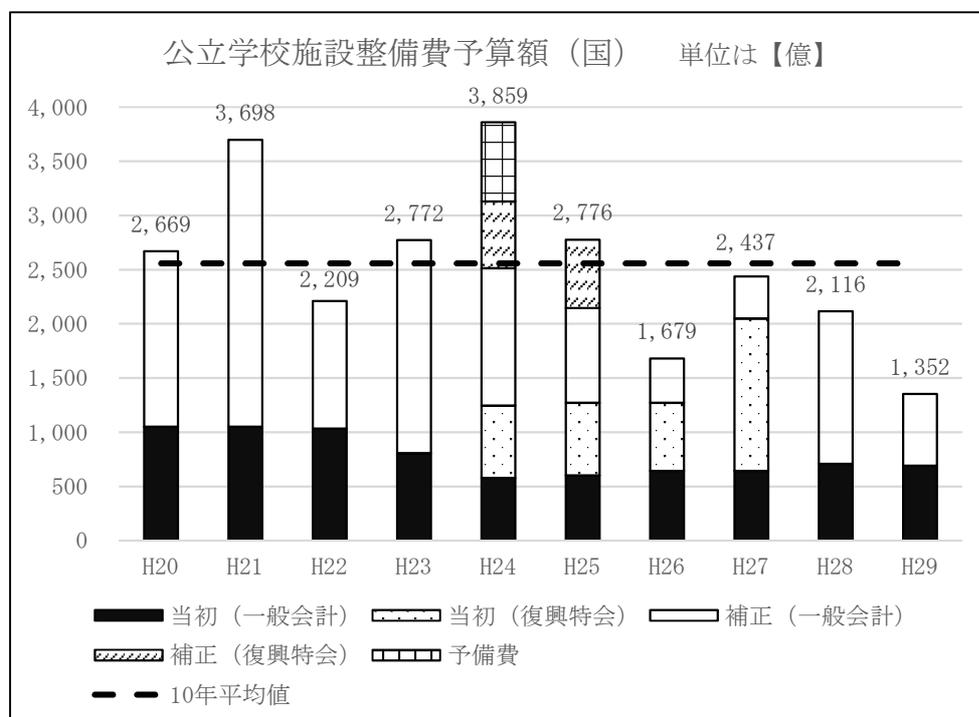
[グラフ 1]



過去10年間の工事平均決算額は5億7千万円である。

予算の平準化を意識して、今後計画的にトイレ改修や特別教室のエアコン設置を行う。

[グラフ 2]



市の予算以外に、国の予算を活用し、市の小中学校の改修や整備を進めている。

平成29年度に国の予算が大幅に減額したため、これまでの水準を保つように国に対して要望をする。

目標	施策の方向性
3. 安全安心で快適な学校・地域づくり	(1)安全安心で快適な学校環境整備

施策	③学校給食の管理
<p>小学校給食調理場の衛生管理の強化を図るため、計画的なドライ化改修工事を行うとともに、食の安全確保の徹底を図る。また、平成 27 年 6 月から各中学校で開始したデリバリー方式選択制給食を継続実施する。さらに、給食を通して食の大切さを伝えるとともに、食への関心を高める。</p>	

事業名	中学校給食事業		
事業予算(千円)	49,569	事業決算(千円)	27,404
平成 29 年度実施内容			
リクエスト献立や試食会の実施、中学校給食調理業務委託業者選定等を行う。			
指標	平成 29 年度実績		評価
①中学校給食喫食率(10%以上)	①4.3%		C
②乗り入れスクール※後の喫食率の増加	②5.2%(対前年1年生比 +2.1)		
実施内容に係る予算(千円)	49,569	実施内容に係る決算(千円)	27,404

取り組みの総括
<p>○喫食率の向上を目指し、人気献立 week の実施やリクエスト献立の募集、乗り入れスクール時の全員給食 [写真 1] など様々な工夫を施した。</p> <p>○平成 28 年度末に鳥飼西小学校及び鳥飼北小学校 6 年生に乗り入れスクールを実施した結果、第二中学校 1 年生の 4 月の喫食率は 5.2% となり、乗り入れスクールをしていない前年の 1 年生に比べ、2.1% 増加し、小学 6 年生へのアプローチに効果があった。[表 1]</p> <p>○平成 29 年度末で喫食率約 4.3% と目標値とのかい離が大きく、向上に向けさらなる取り組みを行う必要性がある。</p>

今後の取り組み
<p>○喫食率 10% を目指し、引き続き、人気献立 week の実施やリクエスト献立の募集、乗り入れスクール、職員会議での周知といった広報活動を行うとともに、今後の中学校給食を見据え、小学校と中学校の組み合わせによる親子方式※や、他市で実施例のあるセンター方式など、全員喫食にむけた研究を行う。</p>

※乗り入れスクール：小学校 6 年生が進学先の中学校へ登校し、1 日過ごす「中学校体験」。6 年生の担任が小学校の授業を行うが、中学校の教員による体験授業や中学生との交流、施設見学も行う。

※親子方式：近隣の小学校で調理を行い、中学校へ給食を配送する方式

[写真1] 乗り入れスクールの際の給食の様子



[表1] 第二中学校の喫食率 各年4月時点

	H28	H29
	実施前	実施後 1年目
1年生	3.1%	5.2%
2年生	2.4%	2.7%
3年生	3.2%	3.8%

目標	施策の方向性
4. 子ども・子育て支援の充実	(1)子ども・子育て支援の充実

施策	①教育・保育の充実
教育・保育のニーズを踏まえた子ども・子育て支援事業計画を策定し、それに基づいた教育・保育事業の提供体制を整備・充実させる。	

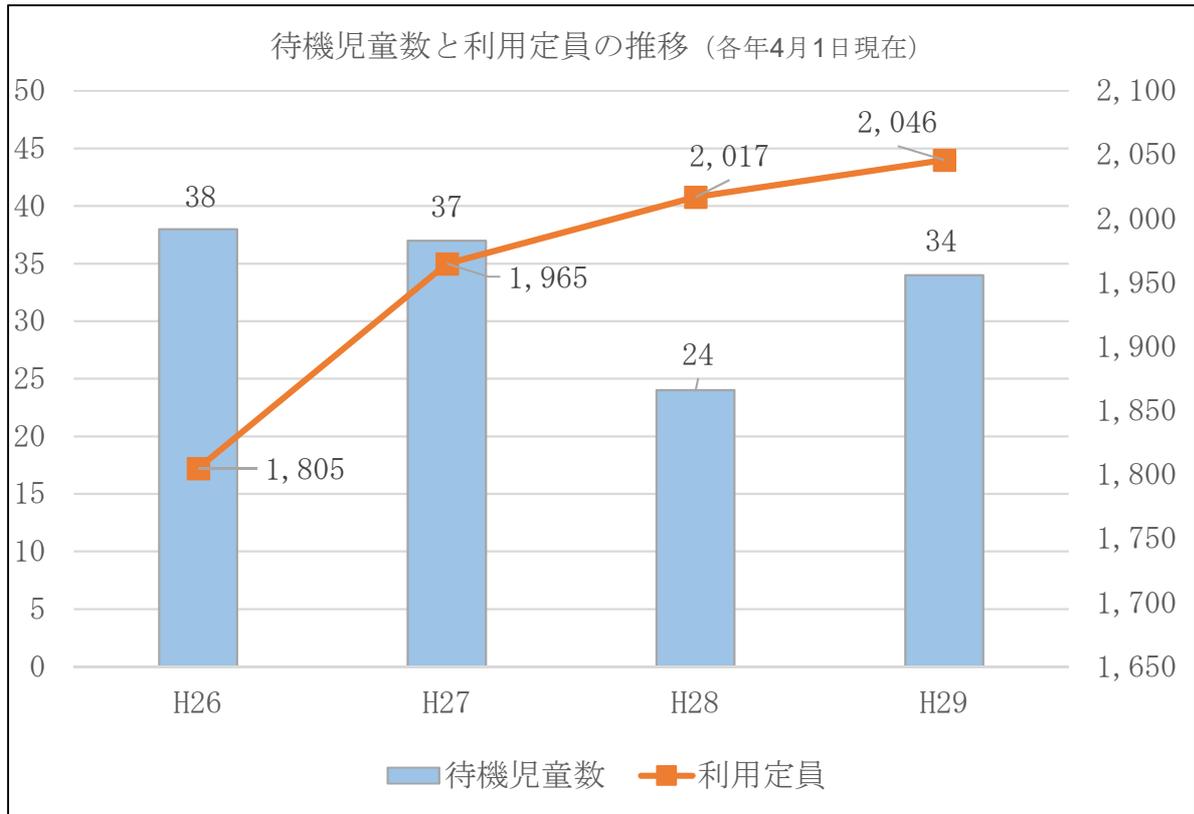
事業名	民間保育所等施設整備補助事業		
事業予算(千円)	262,771	事業決算(千円)	66,798
平成 29 年度実施内容			
待機児童の解消を図るため、民間保育所等の施設整備に対する補助金交付を行う。			
指標	平成 29 年度実績		評価
①待機児童数が前年度(24名)に比べ減少	①34名(前年度比+10)[グラフ1]		C
②保育所整備率※が前年度に比べ上昇	②44.4%(前年度比+1.3)		
実施内容に係る予算(千円)	262,771	実施内容に係る決算(千円)	66,798

取り組みの総括
<p>○小規模保育事業所1か所(定員19名)が千里丘東3丁目に開園し、また既存施設においても10名の定員増加を図ることができた。</p> <p>○小規模保育事業所を1か所、公募・選定を行い、平成30年4月1日の開所に向け、事業者支援を行うことができた。</p> <p>○千里丘7丁目において教育・保育施設(定員160名)を平成30年11月に開園する予定で、設置法人や市関係機関、地元自治会などと協議を進め、着工することができた。</p> <p>○正雀1丁目において民営化した旧正雀保育所の建替え(90名⇒180名)も予定しており、平成31年4月の新園舎開園に向け、設置法人や市関係機関、地元自治会などと協議を進め、着工することができた。</p> <p>○上記の取り組みを実施したものの、保育需要の高まりに追いつかず、待機児童数が増加する結果となったことから、引き続き待機児童解消に向け、施設整備を促進する必要がある。</p>

今後の取り組み
○摂津市子ども子育て支援事業計画に基づき、待機児童の解消に向け、計画的な施設整備を行っていく。

※保育所整備率：0～5歳の未就学児数に対する整備済みの保育所定員数の割合。

[グラフ 1]



目標	施策の方向性
4. 子ども・子育て支援の充実	(1)子ども・子育て支援の充実

施策	②子育て相談・支援
子育て相談・支援	
子育て講座や「つどいの広場※」など子育ての支援、交流、相談の場作り、発達に支援の必要な児童に相談・療育の充実に努める。	

事業名	地域子育て支援運営事業		
事業予算(千円)	45,188	事業決算(千円)	43,789
平成29年度実施内容			
子育ての支援、交流、相談、仲間づくりの場を提供する。			
指標	平成29年度実績		評価
①子育て講座参加者数割合(定員の80%以上)	② 89.0% [表1]		B
②子育て講座参加者の満足度(80%以上)	②「講座を受講してよかった」の割合 88%		
実施内容に係る予算(千円)	45,188	実施内容に係る決算(千円)	43,789

取り組みの総括
<p>○市内に9か所あるつどいの広場※では年間39,015人が来室、「親子ランド」や「絵本であそぼ親子であそぼ」には計785人が参加し、情報の交換や親子での交流や相談の場となった。[写真1]</p> <p>○具体的な子育て技術を学ぶトリプルP※講座では、「兄弟のそれぞれの問題点に適切なアドバイスをいただけてよかった。」など非常に満足度が高かった。</p> <p>○父親も楽しみながら育児や子育てへの意識を高める親子教室「パパっこクラブ」では、教室終了後も、自主的に父親同士の交流会が開催されるなど子育ての輪が広がっている。[写真2]</p> <p>○今後も、地域コミュニティの希薄化等からの孤育てに陥らないよう、子育て支援関係団体の連携を図り、子育て世帯に対し、ニーズに応じた情報提供を行う必要がある。</p>

今後の取り組み
○利用者が希望する講座への参加につなげられるよう、市内の子育て支援関係団体の把握、子育て支援事業の整理を行い、ニーズに応じた情報提供を行う。

※つどいの広場：乳幼児をもつ子育て中の保護者が気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で、子育てや育児について語り合うことができる場。

※トリプルP：子どもの発達を促しつつ、親子のコミュニケーション、子どもの問題行動への対処など、それぞれの親子に合わせた方法にするための考え方や具体的な子育て技術を学ぶもの。

[表 1]子育て講座参加者数割合

(単位：人、%)

年度	講座数	募集人数	参加者数	参加者数割合
H29	43	1,035	921	89.0
H28	41	832	817	98.2
H27	42	824	769	93.3

[写真 1]親子ランドの様子



[写真 2]パパっこクラブの様子



目標	施策の方向性
4. 子ども・子育て支援の充実	(1)子ども・子育て支援の充実

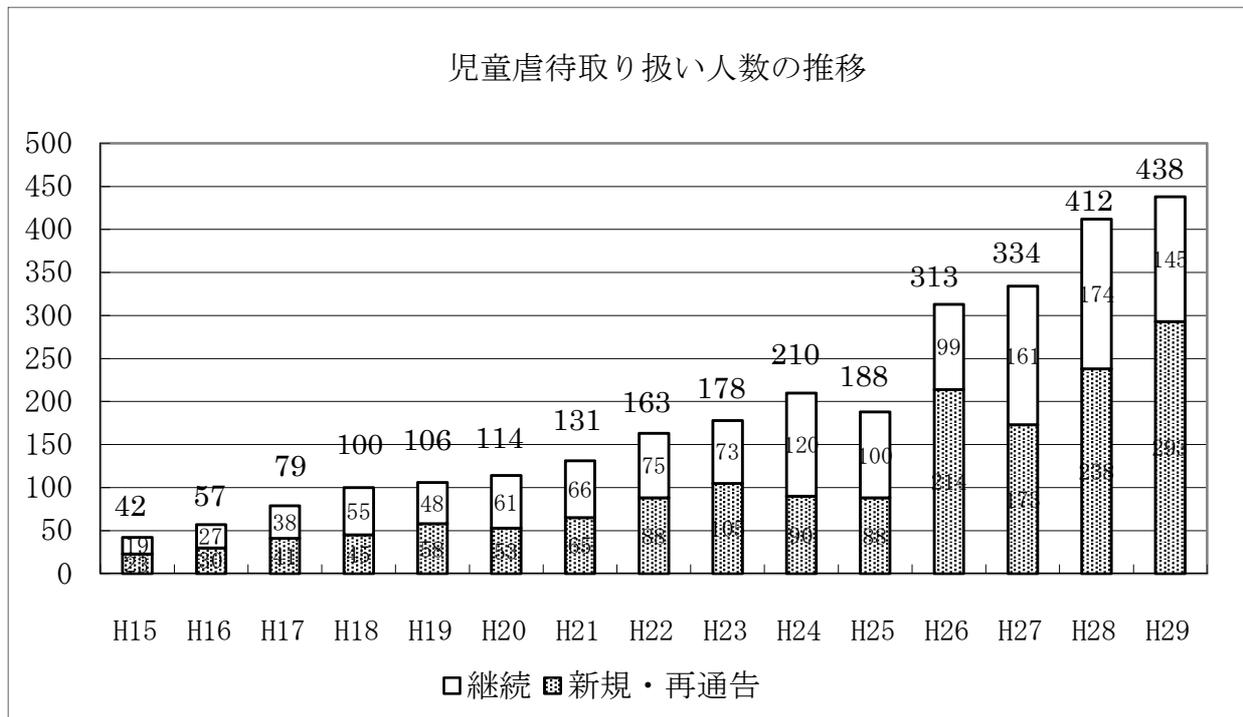
施策	②子育て相談・支援
児童虐待の相談窓口を広く周知し、関係機関の連携を強化して児童の安全を確認し、虐待の未然防止、早期発見と迅速で的確な対応・支援に取り組む。	

事業名	家庭児童相談室運営事業		
事業予算(千円)	24,909	事業決算(千円)	24,427
平成 29 年度実施内容			
虐待対応の機能を市役所本庁に移設するとともに、人員体制の整備を図る。			
指標	平成 29 年度実績		評価
虐待対応業務を行う職員の配置人数 (5 名)	5 名 (正規職員 3 名、非常勤職員 2 名)		B
実施内容に係る予算 (千円)	235	実施内容に係る決算 (千円)	202

取り組みの総括
<p>○児童虐待取り扱い人数の増加[グラフ 1]による、人員体制強化のため、正規職員 1 人を増員するとともに、親子教室の委託により非常勤職員 (心理士) 1 人を心理発達相談からシフトすることで、虐待対応業務に従事する職員を 5 人配置し、基準を満たすことができた。</p> <p>○4 月に虐待対応機能を市役所本庁に移設し、虐待通告があった際に情報端末による情報収集や関係課との連携が容易になり、より早期の対応が可能となった。</p>

今後の取り組み
<p>○通告件数増加により日々の対応に追われている状況で、今後とも体制強化を行い、虐待防止に取り組んでいく必要がある。</p> <p>○虐待対応専門員の増員や現状分析を行うためのシステム改修等の虐待対応強化に向けて、財源も含めた検討を庁内で進めていく。</p>

[グラフ 1]



目標	施策の方向性
5. 教育コミュニティづくりと生涯学習活動の推進	(1)生涯学習の推進

施策	㊦学習施設の整備と活用
地域における生涯学習活動、及び地域コミュニティ活動の拠点として、公民館の適切な運営と公民館活動の充実を図る。	

事業名	公民館施設改修事業		
事業予算(千円)	7,308	事業決算(千円)	3,722
平成29年度実施内容			
味生、新鳥飼、鳥飼東の3公民館について、エレベータ設置を含めたバリアフリー対応について、その手法やコスト等について調査を行う。			
指標	平成29年度実績		評価
公民館バリアフリー対応調査の実施(3公民館)	3公民館 実施済		B
実施内容に係る予算(千円)	1,938	実施内容に係る決算(千円)	1,102

取り組みの総括
<p>○高齢化社会に向け、公民館のバリアフリー化[表1]を進めるため、バリアフリー未対応の味生、新鳥飼、鳥飼東の3公民館のエレベータ設置について調査を行った。</p> <p>○エレベータ設置については(A)エレベータ棟の増築による設置(B)既存建物内の吹き抜けロビーへの設置(C)既存建物内の既存部屋への設置の3案を検討し、何れの方法でも設置可能との調査結果となった。</p>

今後の取り組み
<p>○公共施設等総合管理計画及びファシリティマネジメントの観点から、施設の残存寿命や改修・建替コスト、住民の利用ニーズ、他施設との複合化・多機能化など施設のあり方について議論し、最適なバリアフリー化を含めた施設改修・設置計画を立て実施する。</p>

[表 1]バリアフリー対応の例

エレベータの設置	オストメイト対応多目的トイレの設置
 A photograph of a white elevator door with two vertical glass panels and a control panel on the left side.	 A photograph of a multi-purpose toilet facility with a white toilet, sink, and shower area, featuring grab bars and a fold-down seat.
障害者・車いす利用者用駐車場の設置	スロープの設置
 A photograph of a blue-painted wheelchair parking space with a white wheelchair symbol in the center, located outdoors.	 A photograph of an outdoor ramp with a metal handrail, leading up to a building entrance.
点字ブロックの設置	階段両側への手すり設置
 A photograph of yellow tactile paving (dotted and striped patterns) on a carpeted floor in an indoor setting.	 A photograph of a staircase with metal handrails on both sides, set against a dark wood-paneled wall.

目標	施策の方向性
5. 教育コミュニティづくりと生涯学習活動の推進	(4)市民に親しまれる図書館

施策	②子ども読書活動の充実
映画会・おはなし会などの図書関連事業の開催により図書館利用の増大を図るとともに、学習意欲の向上と情報の発信地としての役割を担う。	

事業名	子ども読書活動推進事業		
事業予算(千円)	-	事業決算(千円)	-
平成 29 年度実施内容			
ビブリオバトル※、ぬいぐるみお泊り会※などの新たな視点でのイベント実施を行い、子どもがより読書に親しむ環境づくりを行う。			
指標	平成 29 年度実績		評価
①おはなし会の実施回数の増加	① 180 回 (前年度比 +5)		B
②おはなし会の延べ参加人数の増加	②1,876 人 (前年度比 -30)		
実施内容に係る予算(千円)	-	実施内容に係る決算(千円)	-

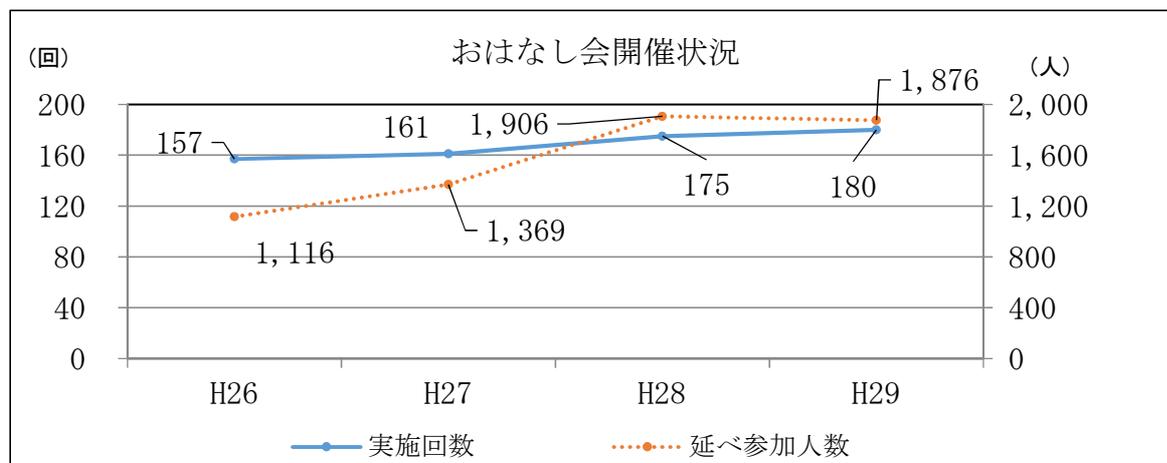
取り組みの総括
<p>○今年度は新たに「外国語のおはなし会」や「こわいおはなし会」など、子どもの興味を引くような企画を取り入れるなどして、参加促進を図ったが、おはなし会の実施回数・延べ参加人数とも、ほぼ前年度と同様であった。[グラフ 1]</p> <p>○おはなし会以外でも、ぬいぐるみお泊り会、図書館ツアー、本探しゲーム、本の福袋、絵本のカルタ大会など、子どもを対象としたイベントを企画実施し、子どもの読書活動の推進を図るとともに利用者満足度の向上ができた。[表 1]</p>

今後の取り組み
<p>○民間企業を指定管理者としている強みを生かした先進的なイベントの実施、また他の公共施設や民間団体との連携など、子どもの読書活動を推進するための施策を実施していく。</p> <p>○おはなし会を通じて、乳幼児期における本との触れ合いの重要性を保護者に発信し、家庭における読書活動の推進を図る。</p> <p>○学校図書館や関係機関と市民図書館の連携を進め、市全体としての子ども読書活動の推進を図る。</p>

※ビブリオバトル：参加者が、それぞれの選んだ本の面白さについてプレゼンテーションを行い、一番読みたくなった本を投票して決定する書評合戦。

※ぬいぐるみお泊り会：子どもたちのお気に入りのぬいぐるみが図書館で過ごす様子を撮影し、子どもたちにレポートすることによって、本への関心を持ってもらうことを目的としたイベント。

[グラフ 1]



[表 1] 図書館利用者満足度調査において満足・ほぼ満足と答えた人の割合

質問項目		平成 28 年度	平成 29 年度
スタッフについて	スタッフの対応はいつも親切ですか	90.8%	95.4%
	スタッフからの挨拶や声かけはありますか	78.1%	84.0%
	スタッフの説明はわかりやすいですか	80.4%	91.1%
	スタッフの受け答えは的確なものでしたか	79.6%	92.6%
	スタッフの身だしなみはきちんとしていますか	88.5%	95.7%
運営サービスについて	本は探しやすいですか	70.7%	86.2%
	本の題名が見やすいように整理されていますか	79.6%	89.5%
	本の品揃えは充実していますか	54.1%	61.5%
	新聞や雑誌の品揃えにはご満足いただいていますか	52.0%	60.0%
	調べ物のための資料や地域資料は充実していますか	54.8%	65.5%
	予約やリクエストのサービスの対応は迅速ですか	67.3%	81.5%
	スタッフに相談して調べ物の役に立ちましたか	68.1%	67.4%
	特集や展示物などに興味のあるものはありましたか	57.4%	58.5%
	イベントに興味のあるものはありましたか	51.3%	49.8%
	ホームページの内容にはご満足いただいていますか	40.8%	52.0%
	開館日数や開館時間はご満足いただいていますか	63.5%	80.6%
	貸出点数や貸出期間にご満足いただいていますか	67.6%	80.6%
	各種サービスについてご満足いただいていますか	57.9%	75.4%
施設管理について	館内がきれいで気持ちよく利用できますか	82.7%	88.0%
	図書館の設備や機器で不便を感じるものはありますか	64.3%	76.6%
	館内でのマナーなどは守られていると思いますか	71.7%	79.7%
	本棚の表示や館内案内図はわかりやすいですか	67.1%	79.7%
	図書館は便利な場所にありますか	67.6%	76.6%

(2)その他事業

重点事業以外の事業を施策ごとに評価しています。「予算の方向性」については、来年度以降の予算の拡充【↑】、現状維持【→】、縮小・廃止【↓】を記入しています。

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(1)確かな学力を育む教育

施策	①授業改善の推進			評価	B
学力向上 推進事業	内容	○各校において、摂津市学力定着度調査※、全国学力・学習状況調査及び府チャレンジテスト等の結果分析に基づき、学力向上の取り組みを実施する。			予算(千円)
	結果	○各校で結果分析に基づき、「学力向上プラン」を作成し、「摂津の学校教育スタンダード※」の観点に沿った学力向上の取り組みが実施されるようになった。 ○教育委員会がヒアリングを実施し、各校の取り組みに対して指導助言した。			決算(千円)
	指標	①学力向上プラン作成校数：全校 ②ヒアリング実施校数：全校	実績	①全校 ②全校	予算の方向性 ↑
中学校教 育用コン ピュータ ー事業	内容	○校務用及び教育用 PC 並びにネットワーク機器の保守整備を行い、円滑な活用環境を維持する。			予算(千円)
	結果	○平成 28 年度に普通教室等に設置した電子黒板機能付きプロジェクターの円滑な運用をはじめ、校務用 PC の使用環境を整備・保守した。			決算(千円)
	指標	①プロジェクター設置普通教室数 ②プロジェクター使用率	実績	①69教室(100%) ②79.7%	予算の方向性 ↑
校内研修 推進事業	内容	○授業改善を進めるため、重点校に指定した3校で、研究計画の策定から研究授業・研究協議の実施に至るまでの支援を行う。			予算(千円)
	結果	○重点校を中心とした全ての小中学校で、教職員の授業研究に対する意識が向上し、研究発表会等が行われるなど、授業改善の取り組みが進んできている。			決算(千円)
	指標	研究発表会等実施校数：全校	実績	全校	予算の方向性 ↑

※摂津市学力定着度調査：市教委及び各学校が児童の学習の定着状況を把握し、指導に生かすために実施する学力調査。小学生2～6年生対象。

※摂津の学校教育スタンダード：摂津市内のすべての学校が共通して取り組む課題を示した指針。

施策	②学習習慣の定着・学習意欲の向上			評価	B
小学1年生等学級補助員配置事業	内容	○主に小学1年生の学級担任の補助として、児童の学習・生活面の支援を行う小学1年生等学級補助員★を全小学校に配置する。		予算(千円)	33,738
	結果	○学級補助員が、児童の学習活動・学校生活を支援することで、学級担任等が児童に向き合う時間が確保された。		決算(千円)	26,480
	指標	小学1年生等学級補助員配置校数：全小学校	実績	全小学校	予算の方向性 →
学習サポーター派遣事業	内容	○学校における学習活動を支援する学習サポーター★を各校に派遣する。		予算(千円)	5,050
	結果	○学習サポーターを全校に派遣し、授業中や放課後学習で児童生徒に対する学習支援を行った。		決算(千円)	4,908
	指標	学習サポーター派遣校数：全校	実績	全校	予算の方向性 →

施策	③読書活動の推進			評価	B
小中学校管理運営事業	内容	○平成27年度から3か年で全小中学校の学校図書館の蔵書冊数を拡充し、学校図書館図書標準を達成する。		予算(千円)	13,216
	結果	○蔵書のうち、使用に耐えない図書や情報が古い図書を廃棄したため、今年度の標準冊数充足率は100%に満たなかった。 ○平成31年度に予算計上を行い、蔵書冊数の充実を図る。		決算(千円)	13,083
	指標	①小学校充足率：100% ②中学校充足率：100%	実績	①99.6% ②90.8%	予算の方向性 ↑
学校読書活動推進事業	内容	○図書館環境を整え、児童生徒が本と出会う機会を増やし、自主的な読書活動を支援する学校読書活動推進サポーター★を全校に配置する。		予算(千円)	19,120
	結果	○図書館の配架を工夫し、図書の紹介、ブースの設置など環境を整えた。 ○図書担当教員と学校読書活動推進サポーターが参加する担当者会を実施し、各校の取り組みを共有した。		決算(千円)	18,617
	指標	学校読書活動推進サポーター配置校数：全校	実績	全校	予算の方向性 →

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(2)豊かな心を育む教育

施策	①人権教育の推進			評価	B
日本語指導教育事業	内容	○海外からの帰国子女及び渡日児童生徒に対し、一人ひとりの課題に応じて日本語指導及び母語指導等の支援を行うため、日本語指導講師★を配置する。		予算(千円)	3,857
	結果	○日本語の力に課題がある児童生徒の状況に合わせて日本語講師を派遣し、日本語と母語の学習や保護者への支援を円滑に行った。		決算(千円)	3,280
	指標	日本語指導講師派遣時数:1,000時間以上	実績 1,075時間	予算の方向性	→
教職員人権問題研修事業	内容	○教職員一人ひとりが、障害者理解、国際理解、男女平等、同和問題等人権及び人権教育に関する正しい知識を深め、それぞれの課題解決に向けてその指導力を高めるため、課題別の人権教育研修会を実施する。		予算(千円)	120
	結果	○研修を実施し、特に経験の浅い教職員の人権意識・人権感覚の醸成を図った。 ○教職員が現在の人権上の課題を知るため、多様な性の在り方に係る研修等、人権課題に係る研修を実施した。		決算(千円)	98
	指標	研修回数:3回	実績 2回	予算の方向性	→
国際理解教育推進事業	内容	○児童生徒が他国・他地域の言語や文化について、活動を通じて学ぶため学校に国際理解教育社会人講師★を派遣する。		予算(千円)	1,910
	結果	○全ての学校でマイノリティを排除しない多文化共生の人権意識を育む国際理解教育の授業を実施した。 ○外国にルーツを持つ児童生徒のアイデンティティを高めることができた。		決算(千円)	1,797
	指標	国際理解教育社会人講師派遣校数:全校	実績 全校	予算の方向性	→

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(3)健康・体力の向上を目指す教育

施策	①運動意欲の向上と基本的生活習慣の定着			評価	B
運動意欲の向上及び生活習慣の改善と食育の推進	内容	○全国体力・運動能力、運動習慣等調査や全国学力・学習状況調査により、児童生徒の運動習慣や生活習慣の実態を把握し、運動への興味関心を深め、その土台となる食事・睡眠などの基本的な生活習慣の定着を図る。		予算(千円)	-
	結果	○食育担当者会を実施し、教職員が食に係る児童生徒の課題を認識できるよう取り組んだ。 ○栄養教諭と連携した研究授業の実施により、教職員は食育の授業づくりに係る見識を深めることができた。		決算(千円)	-
	指標	①食育担当者会の実施回数：2回 ②研究授業の実施回数：1回	実績	①2回 ②1回	予算の方向性 →

施策	②学校体育と部活動の推進			評価	B
全国体力・運動能力、運動習慣等調査	内容	○全国体力・運動能力、運動習慣等調査※や全国学力・学習状況調査結果を踏まえ、各校の体力向上の取組みや体育授業の充実を図る。		予算(千円)	-
	結果	○各校において、調査結果分析を基に体力向上に向けたプランを作成し、授業づくりの工夫や、休み時間を活用した体力向上の取組みが行われるようになった。		決算(千円)	-
	指標	①プラン作成校：全校 ②体力合計点の府平均以上学校数：50%	実績	①全校 ②43%	予算の方向性 →
学校部活動等助成事業	内容	○中学校の部活動に対して財政的な支援を行うとともに、生徒の健康や安全、体罰禁止等に留意した指導について研修を行う。		予算(千円)	2,998
	結果	○部活顧問が部活動指導における心構えや部員に対するコミュニケーションの図り方や指導方法等について力を伸ばすよう取り組んだ。 ○専門性を有し、指導経験の豊富な部活動外部指導者★の派遣を行った。		決算(千円)	2,810
	指標	①研修実施回数：全中学校 ②部活動外部指導者派遣学校数：全中学校	実績	①全中学校 ②全中学校	予算の方向性 →

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査：子どもたちの体力向上と生活習慣改善を図るための調査として、小学5年生と中学2年生を対象に運動能力に関わる実技調査8項目と運動習慣等の質問紙調査を実施している。

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(4)これからの時代に必要とする教育

施策	①グローバル化に対応した英語力の向上			評価	B
国際理解教育推進事業	内容	○英語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、外国人英語指導助手（ALT）を中学校区に派遣する。		予算（千円）	11,960
	結果	○全小学校で児童が英語に親しむ機会として「English Day」を実施した。 ○ALT による研修を実施し、小学校教員の外国語の授業の指導力の向上を図った。		決算（千円）	11,939
	指標	ALT の中学校区派遣数：全校区	実績	全校区	予算の方向性 ↑

施策	②プログラミング的思考力の向上			評価	B
小学校教育用コンピュータ事業	内容	○校務用及び教育用に関するコンピューター及びネットワーク機器の保守整備を行い、円滑な活用環境を維持する。		予算（千円）	9,186
	結果	○プログラミング教育に関する研修や平成 28 年度に導入したタブレット型 PC の授業における活用に関する研究授業を実施した。 ○校務用 PC の使用環境を整備・保守した。		決算（千円）	8,563
	指標	①研修実施回数：3 回 ②研究授業実施回数：1 回	実績	①5 回 ②1 回	予算の方向性 ↑

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(5)今日的な課題に対応した教育

施策	①いじめの防止・不登校児童生徒の支援			評価	B
学校・家庭連携支援事業	内容	○家庭教育相談員を各中学校区に派遣し、教員以外の立場から子育ての悩みや不安等全中学校校を抱く家庭に対して、家庭訪問等の支援を行う。		予算（千円）	5,516
	結果	○家庭教育相談員★が、教職員と連携して児童のお迎えや家庭訪問を直接行うことにより、不登校の抑制や新規不登校の未然防止につながっている。		決算（千円）	5,237
	指標	不登校児童数：60 件（H28 より減少）	実績	53 件	予算の方向性 →

適応指導 教室事業	内容	○不登校の児童生徒に対して、パル（適応指導教室）での指導や小中学校へのさわやかフレンド★派遣を実施し、自立への支援を行う。		予算（千円）	2,183
	結果	○市内4校へさわやかフレンドを派遣し、自立支援に継続して取り組んだ。 ○研究所加配教員による学校巡回により学校との連携を図り、不登校の未然防止や早期対応を行った。		決算（千円）	775
	指標	①パル指導児童生徒数 ②さわやかフレンド派遣人数 ③学校復帰率 ④進学率	実績	①8名 ②4名 ③37.5% ④75%	予算の方向性 →

施策	②進路選択の支援			評価	B
進路選択 支援事業	内容	○進路選択相談員★を配置し、家庭事情や経済的理由等で進学や修学が困難な方および保護者に対して相談・支援を行う。		予算（千円）	108
	結果	○設定した相談日以外にも、進路選択相談員が市内中学校へ出向いて相談活動を実施した。 ○奨学金の活用や返済計画、高校・大学への入学等に関する相談に応じ、相談者の不安を解消し高校や大学への進学を実現した。		決算（千円）	62
	指標	①進路選択相談員派遣回数 ②進路選択相談員相談件数	実績	①10回 ②37件	予算の方向性 →

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(6)一貫性のある教育

施策	②小中一貫教育の推進			評価	B
小中一貫 教育推進 事業	内容	○摂津市小中一貫教育推進協議会を開催し、年度目標や具体的な取り組みについて協議する。		予算（千円）	780
	結果	○生徒指導面だけでなく中学校区内での研究授業の相互参加等、学力向上のための取り組みや、共同で実施した先進校視察での学びを活かした取り組みなどの小中学校が連携した取り組みが進んだ。		決算（千円）	730
	指標	推進協議会実施回数：2回	実績	4回	予算の方向性 →

目標	施策の方向性
1. 生きる力の育成	(7)教育の質を高める体制

施策	①学校園所経営と職員育成			評価	B
学校評価の充実	内容	○年度毎に学校経営計画に基づき学校評価※を実施・公表し、効果的に活用して、学校・家庭・地域の連携により、学校運営の改善や教育水準の向上を図る。		予算(千円)	-
	結果	○全ての小中学校・幼稚園・保育所が、経営計画に挙げた項目ごとに自己評価を行い、次年度のプランに反映させた。		決算(千円)	-
	指標	学校評価実施校数：全校	実績 全校	予算の方向性	→
学校教育相談員配置事業	内容	○全校を巡回指導し、経験の浅い教職員の資質向上を図り、授業力・学級経営力の向上を目指す学校教育相談員を配置する。		予算(千円)	8,368
	結果	○学校教育相談員が初任者等への直接指導や、初任者の指導方法に関する指導教員の相談に応じることで、教職経験の浅い教員の資質・能力の向上を図ることができた。		決算(千円)	8,306
	指標	学校教育相談員★巡回数	実績 1学期 352回 2学期 379回 3学期 151回	予算の方向性	→
研修事業	内容	○教職員の経験年数に応じたステージ別研修や教育課題解決のための専門的な知識や技能の習得を図る課題別研修を実施する。		予算(千円)	1,574
	結果	○中学校区ごとに管外視察を実施し、全国の先進的な取り組みを学んだ。 ○各校で、教職員がOJTの必要性を認識し、メンターチーム※を活用した研修を実施した。 ○ステージ別研修及び課題別研修を実施したが、新学習指導要領に係る研修については、更に計画的に実施する必要がある。		決算(千円)	1,083
	指標	①ステージ別研修実施回数 ②課題別研修実施回数 ③メンターチームを活用した研修実施校数：全校	実績 ① 15回 ②117回 ③全校	予算の方向性	→
教育関係団体補助金事業	内容	○各教育団体の研究等、教育活動の推進に必要な事業に係る補助を行う。		予算(千円)	3,400
	結果	○各教育団体の必要な事業に係る補助を行うことで、教職員の主体的な研究、研究活動を推進することができた。		決算(千円)	2,865
	指標	-	実績 -	予算の方向性	→

学校経営 研究会	内容	○管理職を対象に学校マネジメントに係る研修を実施し、研究を進める。		予算(千円)	-
	結果	○他市の校長経験者による先進的な取り組みを聞き、リーダーシップの発揮について学ぶことができた。		決算(千円)	-
	指標	研修実施回数：3回	実績	3回	予算の方向性 →

※学校評価：学校が目標や取り組みの達成状況を明らかにして、学校運営の改善を図るために行うもの。自ら行う「自己評価」は実施と公表が法律で定められている。さらに「学校関係者評価」や「第三者評価」がある。

※メンターチーム：複数の先輩教職員と複数の若手教職員等でチームを編成し、若手教員の資質能力の向上を支援することで相互の人材育成を図る OJT の一つのシステム。

施策	②地域・関係機関との連携			評価	B
学校協議 会の積極 的運営	内容	○学校協議会※を開催し、学校経営計画や学校自己診断、各種調査結果を報告し、学校運営に関する内容について協議する。		予算(千円)	-
	結果	○各校の学校運営が、学校協議会で学校協議委員から出された意見や保護者からの意見を踏まえ、実施されるようになっている。		決算(千円)	-
	指標	学校協議会を複数回実施した校数：全校	実績	14校	予算の方向性 →
積極的な 情報の発 信	内容	○市の広報課と連携し、さまざまな児童生徒の活躍や取り組みを市の広報やWeb ページで紹介する。		予算(千円)	-
	結果	○市の「広報せつつ」やWeb ページで、各校の取り組みや全国学力・学習状況調査の結果分析、市教委の各施策の内容を家庭・地域に発信することができた。		決算(千円)	-
	指標	-	実績	-	予算の方向性 →

※学校協議会：保護者や地域住民の声を学校運営に反映し、また校長の求めに応じて、保護者・地域住民・有識者等が様々な観点から意見交換や提言を行う組織。校長が委員を委嘱し、年間を通じて計画的に会議や行事参観等を行っている。

目標	施策の方向性
2. 支援教育の充実	(1)支援教育と就学支援

施策	①個に応じた一貫性のある指導の推進			評価	B
非常勤職員任用事業	内容	○重度重複障害や常時見守りが必要な児童生徒が在籍する学校に障害児等支援員・障害児介助員★を配置し、対象児童生徒の生活介助・訓練・作業及び学習指導を補助する。		予算(千円)	63,230
	結果	○障害児等支援員を市内8小学校に16名、4中学校に6名、障害児介助員を市内2小学校に4名配置した。 ○児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援や見守りを行い、特別な支援を必要とする児童生徒の多くが、安心・安全な学校生活を送ることができるよう取り組んだ。		決算(千円)	54,852
	指標	①障害児等支援員の配置人数 ②障害児介助員の配置人数	実績	①22名 ②4名	予算の方向性 →

施策	②相談体制の充実			評価	B
就学児指導事業	内容	○教育支援課、こども教育課、支援教育担当教員、医師、学識経験者、臨床心理士等で構成する教育支援会議を開催し、学校における支援の手だてについて適切な助言を行う。		予算(千円)	235
	結果	○教育支援会議を開催し、児童生徒の就学指導を行った。 ○特別な支援の必要な就学予定児や支援学級への途中入級児童生徒の障害特性や支援方法、また、支援学校進学等について協議し、適切な就学指導を行うことができた。		決算(千円)	186
	指標	①教育支援会議実施回数 ②教育支援会議指導児童生徒数	実績	①18回 ②113名	予算の方向性 →
施設維持管理事業	内容	○教育センターを一部改修し教員研修や相談窓口の充実・強化及び適応指導教室の充実のための改善を図る。		予算(千円)	8,403
	結果	○1階に適応指導教室と事務室、2階に教育相談と個別研修、3階に大研修室を整備するなど教育センター機能強化に向けた具体的な整備を行った。		決算(千円)	8,149
	指標	—	実績	—	予算の方向性 ↑

目標	施策の方向性
3. 安全安心で快適な学校・地域づくり	(1)安全安心で快適な学校環境整備

施策	①教育環境の整備			評価	B
小・中学校施設運営事業	内容	○平成 26 年度から 4 カ年計画で各学校のトイレ 1 か所につき 1 器以上の洋式便器を設置する。		予算 (千円)	1,500
	結果	○平成 29 年度に小学校 2 校 8 器の洋式便器を設置したことで、4 カ年で小学校 10 校 46 か所、中学校 5 校 35 か所の設置が完了した。		決算 (千円)	1,323
	指標	1 か所につき洋式便器 1 器以上設置完了のトイレの割合 : 100%	実績	100%	予算の方向性 →

施策	②感染症の予防			評価	B
小・中学校保健事業	内容	○子どもの心身の健康を守り、安全安心を確保するため、市内公立全幼小中学校において、「学校欠席者情報収集システム※」を用い集計した結果を迅速に市内公立全幼小中学校に発信する。		予算 (千円)	29,360
	結果	○情報収集システムを活用し、各学校へインフルエンザの蔓延状況を情報提供することで、各学校の学級閉鎖の判断に役立てた。		決算 (千円)	28,350
	指標	学級閉鎖学級数	実績	延べ 80 学級	予算の方向性 →

※学校欠席者情報収集システム：国立感染症研究所が開発し、運営するシステム。各学校が毎日入力した欠席者等の情報により、保健所、学校医、教育委員会等が感染症の流行状況をリアルタイムに把握できる。

施策	③学校給食の管理			評価	B
小学校給食事業	内容	○食の安全確保の徹底を図り、健全な食生活・食習慣を養うため、適切な栄養摂取のできる給食を提供する。 ○食中毒等の防止のため、抜き打ちのふきとり検査を実施し、手洗い消毒等の日々の衛生管理を徹底するよう指導を行う。		予算 (千円)	326,992
	結果	○文部科学省が定めた学校給食実施基準に基づき、十分な栄養量が摂取できるよう学校給食の提供を行った。 ○ふき取り検査においては、衛生管理の徹底が行われているため、平成 28 年度よりも黄色ブドウ球菌の検出を削減できた。		決算 (千円)	317,746
	指標	黄色ブドウ球菌が検出された調理員数	実績	4 名 (前年度比 -2)	予算の方向性 →

目標	施策の方向性
3. 安全安心で快適な学校・地域づくり	(2)安全安心な地域づくり

施策	①登下校時の安全確保・見守り体制の充実		評価	B
安全対策事業	内容	○青色防犯パトロールカーで街頭犯罪や子どもに対する声かけ事案の抑止を図ることも安全巡視員を3名配置する。		予算(千円)
		○全公立幼稚園、小学校の校門に不審者侵入を防止する受付員を配置する。		14,565
	結果	○不審者事案認知件数の主な内訳は、露出10件、盗撮5件、声かけ3件等であった。		決算(千円)
		○不審者侵入事案は0件であった。 ○研修会や市職員訪問時を通じて、受付活動マニュアルに沿った活動を行うよう受付員に指導する。		14,080
指標	①子ども安全巡視員配置数：3名 ②不審者事案認知件数：前年度以下 ③受付員配置数：全幼稚園、全小学校 ④研修会出席率：80%以上	実績	①3名 ②28件(前年度比-1) ③全幼稚園、全小学校 ④88%	予算の方向性 →
スクールガード・リーダー配置事業	内容	○不審者事案を抑止する地域学校安全指導員※(スクールガード・リーダー)を配置する。		予算(千円)
				546
	結果	○登下校時の小学校区の巡回により、児童生徒の様子や通学路の安全状況を確認し、子ども安全見守り隊等の地域ボランティアへの助言を行った。		決算(千円)
		○危険個所の早期把握と学校への連絡により、注意を喚起することができた。		545
指標	地域学校安全指導員巡回数：100回	実績	101回	予算の方向性 →
小中学校通学区事業	内容	○通学路交通安全プログラム※に基づき、合同点検を実施し、適切な安全対策を行う。		予算(千円)
				21,298
	結果	○各小学校区から26か所の改善要望があり、17か所を改善し、残り9か所についても、順次、取り組む。		決算(千円)
				19,060
指標	改善か所数	実績	17か所	予算の方向性 →
放課後子ども教室推進事業	内容	○子どもの居場所づくりとしてのわくわく広場※を開催する。		予算(千円)
				3,564
	結果	○全小学校で長期休暇期間等を除く毎週水曜日に開催した。		決算(千円)
		○わくわく広場の指導員のリーダー会議を行い、取組状況の情報交換を行い内容の充実を図った。		2,506
指標	わくわく広場参加者数	実績	12,200人	予算の方向性 →

地域子ども安全安心事業	内容	○子どもの安全対策に取り組む各種団体の連携を強化する。		予算(千円)	690
	結果	○市長部局防犯担当課と連携し、子どもの安全安心の取り組みのための地域防犯研修会を実施し、防犯意識の共有を図った。		決算(千円)	472
	指標	地域防犯研修会参加者数	実績	44人	予算の方向性
防災教育事業	内容	○摂津市防災対策事業による「防災教育の手引き」に基づき防災教育の授業を実践する。 ○「防災教育の手引き」の内容を充実させるための担当者会を実施する。		予算(千円)	—
	結果	○「防災教育の手引き」を活用し、各小中学校で防災教育に係る授業を実施した。 ○防災管財課と連携し、防災教育に係る研修(ワーキング会議)を実施した。		決算(千円)	—
	指標	①防災教育に係る授業実施回数 ②防災教育に係る研修会実施回数	実績	①19回 ②3回	予算の方向性

※地域学校安全指導員：子どもたちの安全・安心確保のため、学校や通学路での巡回指導を行うことで、危険個所の把握や改善、児童生徒への安全啓発の中心となる指導員。(警察官OB 1名を配置)

※通学路交通安全プログラム：平成27年度、道路管理者や警察などの関係機関が連携し合同点検を行うなど、児童・生徒の安全な通学路を確保するために策定。

※わくわく広場：小学校施設を活用して実施することを基本とし、安全で安心な子どもの居場所づくりを推進する取り組み。

目標	施策の方向性
4. 子ども・子育て支援の充実	(1)子ども・子育て支援の充実

施策	①教育・保育の充実		評価	B	
子ども・子育て支援事業	内容	○子ども子育て支援事業計画の進行管理や小規模保育事業の選定などのため、子ども子育て会議を開催する。		予算(千円)	439
	結果	○子ども子育て会議及び部会を開催し、計画の進行管理や小規模保育事業者の選定のほか、就学前施設のあり方について意見の取りまとめを行った。		決算(千円)	412
	指標	①子ども子育て会議開催回数 ②部会開催回数	実績	①3回 ②4回	予算の方向性

民間保育所等入所承諾事業	内容	○法令に基づき教育・保育認定を受けた子どもに対して給付を行う。 ○保育の担い手の確保とその資質の向上のため、子育て支援員研修を実施する。		予算(千円)
				2,280,176
	結果	○保育士の処遇改善に伴う公定価格の改定に基づいた給付を行った。 ○子育て支援員研修を実施し、子育て支援員を養成した。		決算(千円)
				2,255,578
指標	子育て支援員養成数	実績	11人	予算の方向性
				↑

施策	②子育て相談・支援			評価	B
児童発達支援事業	内容	○発達に課題があり療育を必要とする児童に適切なサービスが提供できるよう充実を図る。		予算(千円)	
				341,643	
	結果	○個々の児童に応じたサービスの提供を行うため、サービス利用者全員の利用計画※を作成した。		決算(千円)	
				325,460	
指標	利用計画の作成割合	実績	100%	予算の方向性	
				→	
ひとり親家庭自立支援事業	内容	○ひとり親家庭の就労に向けて個々の状況・ニーズに沿った助言・指導を行い、就労支援を行う。		予算(千円)	
				5,849	
	結果	○自立に向けたプログラムを行い、ホームヘルパー資格取得の教育訓練給付金事業などにつなげた。		決算(千円)	
				4,833	
指標	自立に向けたプログラムの利用者数	実績	7人(希望者全員)	予算の方向性	
				→	
養育支援訪問事業	内容	○子育てに困難を感じている家庭に養育支援のための訪問活動を行う。		予算(千円)	
				4,633	
	結果	○子育て中で精神的に不安定な方や出産直後で周囲に支援者がおらず不安の高い方などのご家庭を子育てアドバイザー※が訪問することで、養育支援を行った。		決算(千円)	
				3,862	
指標	①子育てアドバイザー派遣世帯数 ②子育てアドバイザー訪問回数	実績	①5世帯 ②52回	予算の方向性	
				→	

※利用計画：指定障害児相談支援事業者が、サービス等の利用を希望する障害児の総合的な援助方針や解決すべき課題を踏まえ、最も適切なサービスの組み合わせについて検討し、作成するもので、サービス利用者を支援するための総合的な支援計画。

※子育てアドバイザー：市が実施する研修を修了し認定したボランティアが、子育てに不安を感じている家庭等を訪問し、育児相談などの支援を行う。

施策	③子育て家庭に対する多様なサービスの充実			評価	B
学童保育事業	内容	○適切な遊び及び生活の場を与え、子どもの状況や発達段階を踏まえながら、その健全な育成を図る。		予算(千円)	167,326
	結果	○全小学校で実施するとともに、指導員ミーティングでの情報共有、児童心理などの研修会などの実施することで保育の充実を図った。		決算(千円)	163,022
	指標	①学童児童数 ②研修会実施回数	実績	①753人 ②9回	予算の方向性 ↑
ファミリーサポートセンター運営事業	内容	○子育ての手助けをしてほしい人と手助けしたい人の両者を会員登録することで、マッチングを図り、地域で子育ての支援を行う。		予算(千円)	3,634
	結果	○説明会の開催実施の増などにより、会員数の増加につなげ、事業の充実を図ることができた。		決算(千円)	3,324
	指標	説明会実施回数	実績	6回	予算の方向性 →
市立児童センター運営事業	内容	○遊びや生活の場を通して子どもの発達支援や家庭・地域の子育て支援に取り組む。		予算(千円)	25,673
	結果	○児童センターまつりや夏のキャンプなどの実施により、児童の自主性を養うことができた。		決算(千円)	25,672
	指標	児童センター利用者数	実績	27,426人	予算の方向性 →
子育て支援短期利用事業	内容	○一時的に家庭での生活が困難な児童に対して、児童福祉施設で養育、保護を実施する。		予算(千円)	360
	結果	○保護者の出産や入院などの際に、5世帯の児童に対して計49日間のサービスを提供し、子育ての支援につながった。		決算(千円)	231
	指標	利用者数	実績	9人	予算の方向性 →
ひとり親家庭医療費助成事業	内容	○健康の保持・増進を図るため、ひとり親家庭に対し医療費の助成制度の周知を行う。		予算(千円)	75,654
	結果	○経済的な負担が軽減し、必要とする医療を容易に受けられるようになり、生活の安定に寄与することができた。		決算(千円)	67,792
	指標	ひとり親家庭医療受給者件数	実績	24,770件	予算の方向性 →
子ども医療費助成事業	内容	○健康の保持・増進を図るため、子ども医療費の助成制度の周知を行う。		予算(千円)	327,874
	結果	○子どもの健康の保持・増進を図り、子育て支援の充実に寄与することができた。		決算(千円)	291,294
	指標	子ども医療費受給者件数	実績	151,209件	予算の方向性 →

目標	施策の方向性
5. 教育コミュニティづくりと生涯学習活動の推進	(1)生涯学習の推進

施策	①学びつづける機会の充実			評価	B	
生涯学習フェスティバル開催事業	内容	○大正川河川敷を中心に、行政・市民との「協働」による「生涯学習市民のつどい」、「生涯学習フェスティバルろうそくファンタジー」を実施する。			予算(千円)	807
	結果	○9月2日に「生涯学習市民のつどい」、9月23日に「生涯学習フェスティバルろうそくファンタジー」を実施した。日頃の生涯学習活動における学習成果発表の場、及び摂津市における協働による地域を盛り上げるイベントとして地域に定着した。			決算(千円)	748
	指標	①生涯学習市民のつどい参加者数 ②生涯学習フェスティバルろうそくファンタジー参加者数	実績	①34人 ②4,500人	予算の方向性	→
せつつ生涯学習大学事業	内容	○生涯学習リーダーやコーディネーターを養成するため、生涯学習大学、生涯学習大学院を開催する。			予算(千円)	591
	結果	○生涯学習大学を全13回、大学院を全3回開催した。受講者は減少傾向にある。			決算(千円)	361
	指標	①生涯学習大学受講者数 ②大学院受講者数	実績	①10人 ②4人	予算の方向性	→
生涯学習推進事業	内容	○登録市民講師や市の職員が直接出向いて学習機会を提供する「まいどおおきに出前講座」を実施する。			予算(千円)	-
	結果	○「まいどおおきに出前講座」行政編92講座、市民編44講座をメニュー化し実施した。多くの市民に対しニーズに合わせた学習機会の提供を図った。			決算(千円)	-
	指標	①まいどおおきに出前講座実施回数 ②まいどおおきに延べ出前講座受講者数	実績	①301回 ②約14,000人	予算の方向性	→

施策	②家庭教育力の充実			評価	B	
家庭教育学級事業	内容	○家庭教育学級・幼児家庭教育学級・女性学級を開設し、家庭教育の重要性、家庭と社会とのつながり、家庭における人権問題について学んだ。			予算(千円)	506
	結果	○今後、市内の子育てサークル等に働きかけ、開設学級数の増加に努める			決算(千円)	392
	指標	家庭教育学級・幼児家庭教育学級・女性学級の学級生数	実績	138人	予算の方向性	→

施策	③学習施設の整備と活用			評価	B
公民館講座開催事業	内容	○公民館講座を実施し、学習機会の提供を行う。			予算(千円)
					3,394
	結果	○公民館講座を、5公民館で150講座を実施した。講座開催にあたっては、若者層や男性向け講座、夜間講座や土日の講座を企画・開催し、新たな受講者層の取り込みを図った。			決算(千円)
					3,221
	指標	公民館講座実施回数	実績	385回	予算の方向性
					→

目標	施策の方向性
5. 教育コミュニティづくりと生涯学習活動の推進	(2)青少年の健全育成の推進

施策	①青少年団体の活動支援と連携			評価	B
青少年団体育成事業・PTA協議会育成事業・青少年指導員事業	内容	○青少年指導員連絡協議会、こども会育成連絡協議会、PTA協議会などの青少年関係団体の育成及び活動の活性化に向けて指導・助言、事務局業務などの支援を行う。			予算(千円)
					3,136
	結果	○各団体へ支援を行い、各スポーツ大会等その取組みを推進した。 ○各団体が行う市単位の活動は子どもたちが異なる学年や校区の子どもたちと交流する機会に繋がり、また保護者、指導者にとっても交流や情報交換の場となった。			決算(千円)
					2,821
	指標	①青少年指導員杯スポーツ大会参加者数 ②子ども会親善スポーツ大会参加者数 ③PTA親善スポーツ大会参加者数	実績	①330人 ②300人 ③120人	予算の方向性
					→

施策	②体験学習等の機会の提供			評価	B
こどもフェスティバル事業	内容	○大正川河川敷を中心にこどもフェスティバルを開催する。			予算(千円)
					2,415
	結果	○5月14日に大正川河川敷を中心にこどもフェスティバルを開催した。 ○青少年関係団体をはじめ各市民団体で実行委員会を組織し実施することで市民協働事業として市民活動の推進を図るとともに、青少年の体験学習の場として地域に定着したと考えられる。			決算(千円)
					2,283
	指標	こどもフェスティバル参画団体数	実績	46団体参画	予算の方向性
					→

青少年リーダー養成事業	内容	○小学生を対象に青少年リーダー育成を目的とするチャレンジャークラブ夏冬のキャンプの実施、及びこども会育成連絡協議会による冒険プログラム講習会を実施する。		予算(千円)	2,916
	結果	○キャンプ等の野外集団活動を体験することにより、青少年の協調性や自立心を育み、地域における青少年リーダーの育成を図った。		決算(千円)	2,276
	指標	①夏冬のキャンプ参加者数 ②冒険プログラム講習会参加者数	実績 ①80人 ②10人	予算の方向性	→

目標	施策の方向性
5. 教育コミュニティづくりと生涯学習活動の推進	(3)文化財の保護活用と市史編さん

施策	①文化財の状況把握と保護		評価	B	
文化財保護事業	内容	○市内における掘削工事の立会調査等を実施する。 ○出土遺物等の展示会および講演会を実施する。 ○歴史ボランティア養成講座の実施、及び歴史ボランティアを講師とする「ふるさと摂津講座」を開催する。		予算(千円)	2,131
	結果	○市の貴重な財産である文化財を適切に保護し後世に伝えるとともに、文化財啓発活動を市民協働で行うことにより、市民の郷土意識の向上を図った。		決算(千円)	1,069
	指標	①埋蔵文化財調査 ②出前講座参加者数 ③歴史ボランティア養成講座の実施回数 ④ふるさと摂津講座の開催回数	実績 ① 6回 ②54名 ③ 5回 ④ 6回	予算の方向性	→

施策	②市史編さんと歴史資料の調査・保存			評価	B
摂津市市史編さん事業	内容	<p>○『史料と研究 第3号』（古代淀川流域史料集）を刊行し、『新修摂津市史 本編』の編纂に役立てる。</p> <p>○40年ぶりの歴史・文化資料等の調査・発掘・撮影を行い、将来、市民へ公開等の説明責任を果たすべく、デジタルアーカイブ化に向け保存し、全史料を後世に遺す。</p>		予算(千円)	10,639
	結果	<p>○これまで近現代・近世の史料集、摂津市の歴史など4冊を刊行してきたが、今回、摂津市域に関わる古代史料の中からの成果として、その一部を掲載することができた。</p> <p>○市民や企業などからご協力いただいた史料や失われてしまうと二度と調査できなくなる史料などを含め、9万点以上を収集し、現在3.5万点まで調査・分析が進んでいる。</p>		決算(千円)	9,358
	指標	『史料と研究 第3号』の刊行	実績	刊行済み	予算の方向性

目標	施策の方向性
5. 教育コミュニティづくりと生涯学習活動の推進	(4)市民に親しまれる図書館

施策	①図書館運営の管理			評価	B
図書館運営事業・図書館施設管理事業	内容	<p>○図書館資料の収集、及び市民の読書環境・調べ学習の場を提供する。</p>		予算(千円)	118,031
	結果	<p>○北摂7市3町図書館広域利用を開始し、市民の読書環境の向上を図った。</p> <p>○老朽化した市民図書館空調機の更新を行い、一年を通じて快適な読書環境の提供を図った。</p>		決算(千円)	118,030
	指標	摂津市在住の広域利用登録者数	実績	513人	予算の方向性

[参考] 摂津市が独自に学校に配置している支援人材一覧

詳細は該当ページに記載しています。(★マーク)

●摂津市が雇用（非常勤職員）し、学校に配置している人材

名称	内容	配置数	掲載頁
スクールソーシャルワーカー（SSW）	不登校や問題行動等の課題を抱えた子どもに対して、福祉の視点を取り入れた支援方法を用いて課題解決を果たす役割の専門職。	3人	P.12
スクールカウンセラー（SC）	学校において心理相談業務に従事する心理職専門家。	8人	P.14
小学1年生等学級補助員	主に1年生の児童を対象に、学習・生活面でのサポートを行うことを通して学級担任を補助する非常勤職員。	27人	P.35
学校読書活動推進サポーター	児童生徒の読書活動を推進させることを目的とし、学校図書館の環境整備や図書の推薦、教員の読書指導の支援等を行う非常勤職員。	15人	P.35
家庭教育相談員	不登校や子育て等の悩みや不安を抱く保護者に対して、教員ではない立場で寄り添いながら相談に乗り、支援する非常勤職員。	5人	P.38
進路選択相談員	高等学校、専門学校、大学等への進学に際して、経済的理由等により進学または修学を行うことが困難な生徒及びその保護者に対して相談、支援を行う。	1人	P.39
学校教育相談員	経験の浅い教職員の授業、学級経営、生活指導などについての助言を行うため、市内各校への巡回指導を行う。（教育指導嘱託員、退職校長等）	3人	P.40

●摂津市が定期的または一定期間に学校に派遣している人材

名称	内容	配置数	掲載頁
外国人英語指導助手（ALT）	教員を補佐し、生きた英語を児童生徒に伝える英語を母語とする外国人。	5人	P.10
外国語活動支援員	小学校の外国語活動の授業において、ティーム・ティーチングを通して授業者を支援するとともに、外国語活動の充実のために教員にアドバイス等を行う支援員。	1人	P.10
学習サポーター	子どもたちの学習活動を支援するために派遣している有償ボランティア。退職教員、地域人材、学生などが中心。	62人	P.35
日本語指導講師	海外からの帰国子女及び渡日児童生徒に対する適切な学校教育の機会の確保を図るために母語指導も含めて日本語指導を行う講師。	5人	P.36
国際理解教育社会人講師	児童生徒に他国・地域の言語や文化について、活動を通じて説明・紹介を行う講師。	2人	P.36
部活動外部指導者	部活動の専門的な指導技術を持ち合わせている外部人材。部活動顧問の専門的な指導技術をサポートする。	11人	P.37
障害児等支援員 障害児介助員	重度重複障害児童生徒が在籍する学校に配置し、対象児童生徒の生活介助・訓練・作業及び学習指導の補助を行う非常勤職員。	26人	P.42

●摂津市が定期的または一定期間に学校や教育センターに派遣している人材

名称	内容	配置数	掲載頁
さわやかフレンド	不登校の児童生徒に対して、話し相手や遊び相手、学習補助をする学生・大学院生による有償ボランティア。	8人	P.39